

平成28年度 普及のあゆみ



平成29年3月

熊毛支庁屋久島事務所農林普及課
鹿児島県熊毛郡屋久島町安房650番地
TEL 0997-46-2236
FAX 0997-46-3384

は じ め に

農業・農村を取り巻く環境は、高齢化に伴う担い手の減少、それに伴う耕作放棄地の増加やグローバル化の急速な進展に伴う輸入農産物の増加、消費者の食の安心・安全に対する関心の高まりなど大きく変化しています。また、TPP（環太平洋パートナーシップ）協定については、米国大統領選挙後に、動向が不透明な状況になっており、今後の情勢が注視されています。

このような中、本県では、「かごしまの食と農の県民条例」や「食と農の先進県づくり大綱」のもと、生産力の強化、販売力の強化、付加価値向上への取組強化、農村の多面的機能の維持・発揮を柱とした攻めの農業の実現に向けての施策が展開されています。

屋久島事務所農林普及課農業普及係では、これらを踏まえ、地域農業のめざすべき姿を長期的に展望し、7つの普及課題を設定し、関係機関・団体等と連携して農業者とともに地域課題の解決に向けて活動を展開してきました。

今回、これらの活動の経過や成果並びに実証・展示ほの成績を「普及のあゆみ」としてまとめましたので、地域農業の振興や個別経営の改善等に活用いただければ幸いです。

終わりに、実証・展示ほの設置等にご協力いただきました農業者の方々、普及指導活動を展開するにあたり、様々なご支援・ご協力いただきました普及指導協力委員の方々、屋久島町、屋久島町農業委員会、種子屋久農業協同組合等関係機関・団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。

平成29年3月

屋久島事務所農林普及課

課長 井口寿郎

目 次

I 普及活動事例

- 1 屋久島農業を担う人材の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 地域の特性を活かした畑作農家の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 たんかん・ぼんかん栽培農家の経営安定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 屋久島の特性を活かした茶産地づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 生産性の高い肉用牛経営の確立・推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 6 持続的な地域農業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 7 屋久島の農林水産物を活かした地産地消ビジネスの推進・・・・・・・・ 13

II 実証・展示ほ等成績

- 1 ぼんかん優良系統の選抜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 二番茶後深刈り更新園の整枝法～連年更新効果の検討～・・・・・・・・ 17
- 3 微生物資材を活用したばれいしょそうか病対策の検討・・・・・・・・・・ 19

III 参考資料

- 1 平成28年の主要作物生育経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 平成28年の気象データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 3 ミカンコミバエ種群発生及び防除対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 4 ミニ情報でつづるこの1年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

I 普及活動事例

課題名：屋久島農業を担う人材の確保・育成

1 対象

認定農業者78戸，屋久島町認定農業者連絡協議会 1 組織，屋久島町アグリネット44名，経営体育成支援対象者15名，研究会組織 4 組織，新規就農者13名，屋久島 4 Hクラブ11名，屋久島つわぶき会17名，若手女性農業者15名

2 課題を取り上げた背景

- (1) 地域の農業生産を維持していくため，認定農業者等の担い手が地域の農業生産の相当部分を担うような農業構造を確立する必要があるが，認定農業者数は，平成18年から高齢化を背景に増減を繰り返しており，基本構想見直し時期に合わせ，78戸の確保・育成策の検討が急務である。また，基本構想の目標所得を達成している認定農業者が少ない現状で，目標所得を達成できる経営改善農家の育成が必要である。
- (2) 高齢化が進む中将来の担い手を確保するため，関係機関・農家協力のもと，部門研修や基礎研修会等の充実を図り，新規就農者の定着支援が必要である。また，新規就農者等に屋久島4Hクラブへの加入誘導を図り，組織活動を通じた次代の農村リーダーとしての資質向上・能力向上を支援する必要がある。農業青年に対しては，プロジェクト活動等による生産・経営管理技術の向上支援が必要である。

3 活動内容

- (1) 認定農業者等の確保・育成
 - ア 推進体制の充実
町基本構想は，5年後の農業のあるべき姿を明確にし，目標所得，地域営農類型等の見直しを行った。また，アクションサポートチーム会で認定農業者の確保方策検討や研修企画検討を行った。
 - イ 新規認定農業者及び再認定者への支援
再認定者の計画達成状況をもとに計画作成支援を行うとともに，新規認定農業者の誘導を図り，明確な目標と実現可能な計画作成指導を行った。
- (2) 地域農業を牽引するモデル経営体の育成
 - ア 経営改善計画の実現と所得の向上
アグリネットを中心に，パソコン複式簿記研修（15回）において経営実態把握を行い，分析手法の研修等をとおして改善方策検討を行った。
 - イ モデル経営体の目標達成支援
目標の明確な認定農業者に対し，改善方向や制度資金利用などの手段を提案した。日本政策金融公庫と連携した経営改善・資金相談会を4回開催し，計画，改善方策の検討を行った。
 - ウ 産地育成に向けた研究会活動支援
4研究会（畑作，果樹，茶，和牛）は産地の課題解決の方向に活動しており，基盤の確立改善や技術改善が図られつつある。
- (3) 新規就農者及び青年農業者の確保・育成
 - ア 新規就農者の定着支援
新規就農者励ましの会や現地就農トレーナーと連携した基礎研修会，部門別研修会，個別巡回等により新規就農者の営農や定着を支援した。
 - イ プロジェクト活動の実践等による生産・経営技術の向上支援
4Hクラブ会員のプロジェクト活動について，課題設定，計画作成，実践，とりまとめ，発表の各段階を支援し，うち2名を青年農業士へ誘導した。また，現地就農トレーナー研修の充実を図るため，2名を指導農業士へ誘導した。
- (4) 農村女性の農業経営等参画支援
 - ア 農村女性の技術・経営管理能力等の習得支援
組織間の相互交流や他組織と連携を通じて，女性農業者の多様な役割発揮の場の設定を図った。また，6次産業化に関する情報を提供やセミナーへの参加を誘導し，経営発展にむけた支援を行った。さらに，女性農業経営士への誘導を図った。

4 活動の成果

- (1) 新規認定農業者を4戸確保し，12戸の再認定計画を支援した結果，認定農業者数は78戸を確保した。
- (2) パソコン複式簿記研修には，新規記帳者5名を加え，延べ145名が参加し，記帳，決算をと

おした経営把握や簡易な分析を行った。また4回実施した経営改善・資金相談会では8戸の経営改善計画検討を行い、3戸の改善が図られつつある。

- (3) プロジェクト活動については、積雪の影響で完成数が減少し、発表者は11名中4名であったが、うち2名は青年農業士に認定された。また、従来の指導農業士は果樹と茶部門のみで、野菜部門の新規就農者への支援が不十分であったため、新たに茶と野菜部門に各1名ずつ推薦し、認定された。
- (4) 女性農業経営士養成研修参加への誘導を図った結果1名参加があり、認定された。6次産業化に関するセミナーや個別相談会に女性農業者5名、組織間交流会に18名参加した。

5 今後の課題

- (1) 認定農業者の高齢化、脆弱な経営基盤は継続した課題であり、一層の認定農業者の確保・育成を図るとともに、後継者の確保や経営移譲策の検討。
- (2) 経営改善手段として定着した、パソコン複式簿記での経営実態把握や経営改善・資金相談会における改善計画検討等の充実を図る。
- (3) 研究会組織の産地課題解決及び生産者組織への成果の迅速な波及。
- (4) プロジェクト活動の継続実施及び青年農業士への認定に向けて支援する。また、会員数の減少に応じた組織活動の再検討。
- (5) 多様な役割発揮の場の設定や農業経営の中での女性の位置づけ明確化により主体的に経営に参画する女性農業者の育成を支援。

6 農家の声

- (1) 新規にパソコン簿記に悩みながら取り組み、記帳、決算、青色申告の流れがよくわかりおもしろくなった。来年も頑張りたい。
- (2) 「私はこんなに儲かっているの?」と思ったけれど、普及指導員から「償却資産の増加と財務状況の改善」の説明を受け、納得しました。今後も改善方向に沿って頑張ります。

7 担当した普及職員 (○はチーフ)

田淵, 上福元, ○徳田, 眞正, 入料



<パソコン複式簿記で決算に奮闘中!>



<経営改善・資金相談会にて改善方向の検討>



<新たに認定された農業士等>



<女性農業者研修中>

I 普及活動事例

課題名：地域の特性を活かした畑作農家の育成

- 1 **対象** 畑作農家36戸，畑作研究会7戸，焼酎用さつまいも栽培農家13戸，ソロヤム増収対策協議会15戸，J A野菜部会ばれいしょ栽培農家20戸
- 2 **課題を取り上げた背景**

畑作農家の拡大を図り，実需者のニーズに対応し，継続出荷できる体制を確立する必要があるが，その担い手となる畑作農家が少ない。南部地区を中心に基盤整備が進んでおり，畑作農家の育成が必要である。
- 3 **活動内容**
 - (1) 畑作営農の支援体制の強化
畑作営農それぞれの品目の抱える課題について，関係機関（町，J A，農林普及課）で対応策を検討した。
 - (2) 畑作物の生産性向上
 - ア 焼酎用さつまいも
屋久島では冬期の労働競合で育苗作業が遅れ，苗確保に苦慮していることが課題であったため，町が屋久島町農業管理センターに委託している果樹試験園のハウスを活用した早期の苗供給システムの構築へ向けて取り組んだ。
 - イ ソロヤム
農業開発総合センター熊毛支場と連携し，優良種苗の供給を行っているが，今後，島内で種芋供給体制を構築していく必要があり，どのように進めていくか検討した。
坪掘り調査を実施し，計画的に出荷できるよう出荷予測を行った。
 - ウ ばれいしょ
27年産栽培において疫病が大発生し，生産量が約3割減少したため，疫病対策支援に取り組んだ。
- 4 **活動の成果**
 - (1) 畑作営農の支援体制の強化
焼酎用さつまいもの生産量向上を目標とした早期の苗供給システムの構築へ向けて，関係機関（町，J A，農林普及課，農業管理センター，2酒造会社）それぞれで役割分担し，支援する体制が整備できた。
 - (2) 畑作物の生産性向上
 - ア 焼酎用さつまいも
屋久島農業管理センターが管理業務受託している果樹試験園の空きハウスを活用し，購入希望のあった町内の生産者14名に4月から苗を供給する苗供給システムがスタートした。
 - イ ソロヤム
島内の生産者に原原種栽培が可能かどうか検討したが，生産者の負担が大きくなり不可能とのことで，今後，農業開発総合センター熊毛支場と連携し，加工業者の生産部門で種芋生産ができないかを再検討することとした。
出荷予測を行い，取引先への情報提供を行った。
 - ウ ばれいしょ
疫病対策として，薬剤の予防散布を呼びかけたり，防除体系の検討を行ったが，防除することができず，28年産も生産量が減少する結果となった。
- 5 **今後の課題**
 - (1) 焼酎用さつまいも
苗供給システムの構築及びバイオ苗導入の検討
 - (2) ソロヤム
島内種芋供給体制の検討
 - (3) ばれいしょ
病害対策支援

6 農家の声

焼耐用さつまいもの生産量上げるために、苗を早い時期（4月）に植えることができればよいが、現状では露地での育苗であることから4月に苗を確保することが難しい。

地元で4月に苗を購入できるシステムをぜひ導入してほしい。また、バイオ苗の導入についても検討してほしい。

7 担当した普及職員（○はチーフ）

○入料



＜焼耐用さつまいも 苗供給システム検討会＞



＜果樹試験園ハウス活用 苗供給システム＞



＜焼耐用さつまいも 現地検討会＞



＜ソロヤム 島内種芋供給体制検討＞



＜ばれいしょ K-GAP現地審査＞



＜ばれいしょ 疫病対策実証試験＞

I 普及活動事例

課題名：たんかん・ぼんかん栽培農家の経営安定

1 対象 果樹栽培農家320戸 J A果樹部会246戸 果樹研究会20戸 ACCY 5人

2 課題を取り上げた背景

屋久島では、ぼんかん、たんかん主体の果樹経営だが、景気の低迷、贈答需要の減少等により市場単価は低下傾向が続いている。また、様々な高糖系中晩柑類など産地間競争は激しくなっている。

このような中、果樹農家の経営安定には省力化機械導入の普及や生産性の低い老木の改植に向けた取組が必要である。

また、生産者、関係機関・団体が連携を密にし、産地課題の解決を図る必要がある。

3 活動内容

- (1) 果樹産地再編
改植先の樹種候補として「たんかん」以外に「KP-2（早生系ぼんかん）」、「みはや」、「津之輝」、「黄みかん（黄金柑）」の4樹種を選定し、生育調査を行った。
- (2) 産地力の維持
果樹生産組織を対象に病虫害防除や栽培管理、土壌管理などについて、各研修会や講習会を通して指導した。また、フルーツ情報をとおして基本管理徹底の重要性を情報提供した。また、「屋久島のたんかん」のブランド再認定に向けた申請の支援を行った。
- (3) 若手果樹生産者への支援強化
果樹若手生産者を対象に、技術や資質向上に関する支援に取り組んだ。

4 活動の成果

- (1) 本年は、暖冬であり中晩柑にとっては着色が遅い年であった。KP-2もやや着色が遅れたが、それでも12月上旬で出荷可能であった。また、KP-2については、屋久島試験園に苗確保のため母樹園を設置した。
「みはや」は、初成りで1樹当たり2～3果の着果であり、12月上旬で完着となったが、低糖低酸で味ぼけした果実内容となった。着果量が増えてくると品質が改善されると考えられる。また、「津之輝」も初成りで1樹当たり2～3果の着果となり、糖度が10.2と低かったが、今後着果量が増えることにより品質改善されると考えられる。 「黄みかん（黄金柑）」は、現地では大玉系と小玉系があり、小玉系が糖度が高く有望と考えられた。
- (2) フルーツ情報は、カラー印刷したことと、内容を充実させたことにより、読まれる方が多い。
高品質果樹生産研修会では、屋久島の果樹の改植の必要性と省力技術及び樹園地改造について研修を行なった。花崗岩の多い屋久島では、樹園地改造は難しいと思われがちであるが、調査した園地の8割がSS等の省力機械の導入が可能であり、今後も粘り強く説明する必要がある。
また、たんかんの老木の多い屋久島で、「トロイヤー台たんかん」が改植事業で認められるようになり、来年度以降改植事業が取組やすくなった。
「屋久島のたんかん」のブランド再認定に向けては、現地審査まで終了し、平成29年度再認定される見込みである。
- (3) 若手果樹農家で少しずつであるが、規模拡大を行ったり、スピードスプレイヤーの導入を図る農家が出てきた。

5 今後の課題

- (1) 改植先の4樹種の屋久島での現地試験の継続
- (2) 改植事業のPRと推進
- (3) スピードスプレイヤーに導入に向けた推進
- (4) 若手果樹農家の個別支援

6 農家の声

- (1) 早生ぽんかんのKP-2は、着色も早く、カラーリングも必要ない。早く苗の供給体制を確立して欲しい。
- (2) 永田地区の特産品として「黄みかん」の産地化を図りたい。

7 担当した普及職員 (〇はチーフ)

○田淵



改植先の検討 (4 樹種)



<高品質果樹生産研修会>
第3章：樹園地改造と省力化技術



<改植事業等説明会>



<ブランド現地審査>
(たんかん選果場)



<ヒヨドリ対策検討>
(若手果樹農家)



<出荷前目揃え会>



<摘果状況確認>

I 普及活動事例

課題名：屋久島の特性を活かした茶産地づくり

1 対象 屋久島町茶業振興会25戸

2 課題を取り上げた背景

生産者は、高齢化等により減少傾向にあるものの、茶園流動化や耕作放棄地を活用した新植等により、茶栽培面積は増加傾向にある。荒茶価格は、リーフ茶の消費減退等により市場単価が低迷している中、走り新茶産地として、特に一番茶については、深蒸しや若芽摘採による高品質茶生産が定着し、流通関係者から高い評価を受けている。さらなる生産基盤強化を目指し、消費者の安全・安心志向の高まりに配慮しつつ、生産管理技術の向上等を通して、茶生産者の経営安定を図る必要がある。

3 活動内容

(1) 生産基盤の強化

ア 茶園の流動化の推進

高齢化に伴う離農者の茶園について、他農家への情報提供及び茶園取得後の経営計画を支援した。

(2) 生産管理技術の向上

ア 高品質茶生産の推進

高品質茶生産志向が高い当地域において、収量確保を意識した更新技術確立へ向け実証試験に取り組んだ。また、屋久島茶販売力強化へ向け、新商品開発（ほうじ茶・紅茶等）を支援し、さらに研修会では、小売り茶の品質向上及び保管方法を指導した。

イ 防除体系の確立

天敵に優しい薬剤選定とチャトゲコナジラミ発生域の拡大抑制を考慮した、茶園管理暦作成を検討した。

(3) 安全・安心なクリーンな茶づくりの推進

ア 生産履歴システムの効率的な活用方法の検討

生産履歴を活用した、粗収益等をリアルタイムで把握できるシステムにより、生産者の技術診断を実施した。

4 活動の成果

(1) 離農者の茶園は大規模法人が取得した。耕作放棄地は無いものの、面積拡大志向農家が新植しなくても既存茶園を取得できているため、全体面積は横ばいであった。

(2) 実証ほ場は現地検討会等で情報提供しており、茶園管理を改善する機運が高まっている。屋久島版茶園更新マニュアルへ向けた基礎資料データは得られつつあり、栽培管理技術の高位平準化につなげていきたい。また、販路拡大支援では、新商品の開発・パッケージの検討・商品売り込み等の取組を開始することができた。
チャトゲコナジラミに対応した暦に変更できた（チャトゲ登録薬剤H24：5剤→H29：7剤）。

(3) ほ場毎の生産実績を評価・検討することで、各ほ場が抱える課題が明確となり、今後の技術改善につなげることができた。

5 今後の課題

(1) 経営安定へ向け優良品種への新・改植支援

屋久島地杉等加工残渣（樹皮）の茶園利用による環境に優しい農業支援

(2) 品質維持と収量増を目指した屋久島版茶園管理マニュアルの作成。特に平成28年9月の台風では、甚大な潮風害を受けた茶園が一部見られたことから、気象災害リスク軽減を意識したマニュアルとしたい。

(3) 第三者認証の新規取得者への技術支援

6 農家の声

若芽摘採が定着し、良好な市場評価を得られているが、収量は個人差がみられる。品質を維

持しつつ、収量増を目指した茶園管理技術確立を期待する。

7 担当した普及職員（○はチーフ）

○真正



<PR活動（ふるさと産業祭）>



<一番茶互評会>



<小売り茶研修会>



<秋期茶園管理研修会>



<新商品試作>



<おいしいお茶の入れ方教室>

I 普及活動事例

課題名：生産性の高い肉用牛経営の確立・推進

1 対象 屋久島町和牛振興会 17戸（和牛研究会 7戸），口永良部島肉用牛農家 4戸

2 課題を取り上げた背景

- (1) 屋久島の肉用牛農家は、高齢化が進むなか、飼養戸数、頭数ともに減少傾向にあり、産地規模の維持を図るには、経営基盤の強化と生産技術の平準化が必要である。
- (2) 増頭意欲の高い農家に対し、経営改善計画を検討、実践を支援し、農家間に差のある技術の高位平準化を図る必要がある。

3 活動内容

- (1) 産地規模の維持
目標を持った認定農業者の経営改善計画に基づき、制度資金借入等による、牛舎他施設整備や増頭を支援した。また、パソコン簿記帳を推進し、経営管理意識の向上が図られた。
- (2) 繁殖成績の向上
繁殖技術の高位平準化を図るため、ア、イについて検討した。
ア 飼育管理密度の検討
町牧場場への受胎牛の預託制度活用により、牛舎内の飼育密度が減少し、観察が容易になり、母牛のステージごとの管理徹底を行い、受胎率90%以上が可能となった。
イ 繁殖記録板活用による見える化の推進
繁殖記録板はほとんどの肉用牛農家で飼養されているが、風雨で文字が消えたり、牛の移動時の書き換えの手間などで農家自らの活用が十分に行われていなかった。牛名号など常に記入する部分を、磁石のついたカードにして、見やすくすることで、家族で牛管理をするよう検討した。
- (3) 子牛の商品性向上
ア 人工哺育方法の改善
哺育子牛の疾病が絶えない農家の人工哺育作業をチェックした結果、給与時のミルク温度の低下と哺乳瓶洗浄不足が見られ、改善指導した。写真のミルクホルダー設置で、作業効率が改善し、疾病が減少、発育も良好である。
イ オガクズ利用による子牛疾病改善
子牛牛床管理不足で、下痢や事故が問題であったが、屋久島地杉加工センターで「オガクズ利用検討会」を開催、オガクズ活用を推進した結果、管理が改善し、下痢を中心に疾病が減少した。
ウ 子牛発育改善検討
JAと連携して、発育改善が必要な農家に対して、体側、給与改善、牛舎環境、群分けを指導し、振興会員の平均的な発育にまで改善した。

4 活動の成果

- (1) 肉用牛の認定農業者は、自家保留や制度資金利用によって、施設の増築や30頭以上の増頭を行い、経営基盤強化改善に取り組んでいる。
- (2) 繁殖成績は隔年傾向にあり、28年は376日であった。飼養管理技術改善が図られつつあることで、子牛商品性の改善、向上が期待される。

5 今後の課題

- (1) 経営改善計画に基づき、継続した経営管理、資金管理意識改善を図るとともに、後継者を意識した経営方策の検討。
- (2) 繁殖技術は、ICT技術導入を行った農家もあり、飼育密度（ステージごとの群分け）や繁殖記録などとあわせ、容易に管理改善が図られるよう、技術の波及。
- (3) オガクズ利用による発育改善が図られつつあり、今後はキャトルセンターの利用も検討し、発育ステージごとの群分け、管理改善を図り、一層の商品性向上に努める。
- (4) オガクズ利用による牛舎のふん尿を堆肥化するためのシステムの検討が必要。

6 農家の声

施設の増築やオガクズ利用で牛舎が明るく、管理しやすくなりました。増頭したり飼養管理の改善に努めたいと思います。

7 担当した普及職員（〇はチーフ）

○徳田



<子牛・育成牛牛舎を増築>



<建設中の分娩舎>



<飼育密度を抑え、未受胎牛の観察を徹底>

番号	名	生年月日	父	祖父	回数	繁殖月日	産犊月日	牛名	番号	名	生年月日	牛名	月日
1	ササキ	2008.11.09	百合茂	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	1	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
2	ササキ	2008.08.07	安藤久	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	2	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
3	ササキ	2008.07.09	金平	安藤久	0	10/25	11/10	ササキ	3	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
4	ササキ	2008.12.18	百合茂	安藤久	0	10/25	11/10	ササキ	4	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
5	ササキ	2008.04.05	安藤久	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	5	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
6	ササキ	2008.10.07	安藤久	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	6	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
7	ササキ	2008.09.29	安藤久	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	7	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
8	ササキ	2008.11.23	安藤久	百合茂	0	10/25	11/10	ササキ	8	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
9	ササキ	2008.03.19	百合茂	安藤久	0	10/25	11/10	ササキ	9	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
10	ササキ	2008.07.13	安藤久	金平	0	10/25	11/10	ササキ	10	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
11	ササキ	2008.07.13	百合茂	安藤久	0	10/25	11/10	ササキ	11	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
12	ササキ	2008.07.13	安藤久	金平	0	10/25	11/10	ササキ	12	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
13	ササキ	2008.07.13	安藤久	平茂勝	0	10/25	11/10	ササキ	13	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
14	ササキ	2008.07.13	百合茂	安藤久	0	10/25	11/10	ササキ	14	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
15	ササキ	2008.07.13	百合茂	金平	0	10/25	11/10	ササキ	15	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10
16	ササキ	2008.07.13	安藤久	百合茂	0	10/25	11/10	ササキ	16	ササキ	2009.01.10	ササキ	11/10

<磁石のついたカードで記録した繁殖記録板>



<ミルクホルダーで給与がスピーディに>



<オガクズ利用で牛舎が明るく管理改善>

I 普及活動事例

課題名：持続的な地域農業の推進

1 対象 管内全集落，神山校区

2 課題を取り上げた背景

高齢化の進行，担い手農家の減少とともに樹園地をはじめとする農地の荒廃がすすみつつある。そこで，関係機関団体と連携を図り，一体となって地域ぐるみで地域営農のあり方に向けた検討と仕組みづくりについて，農地中間管理事業の活用や人・農地プランの検討等を通してすすめていく必要がある。

3 活動内容

(1) 推進地区の話し合い活動支援

ア 関係機関と連携

「人・農地プラン」の見直し・未策定地区への推進方法について，関係者で推進地区の優先順位や中心経営体として位置づけられる候補者について検討した。

イ 話し合い活動の支援

「農地中間管理事業」を取組むにあたって，農地の利活用について，積極的に意見交換が図られるよう支援した。

(2) モデル地区における農地利用の検討

耕作放棄地園の解消や農地の維持管理のために，「農地中間管理事業」に取り組んで設立された「農地利用組合」では，刈払機，チェンソー，背負動噴を導入し，共同作業に取り組んだ。地区内で生産される果樹や野菜の品質向上に向けた研修会が開催された。

4 活動の成果

(1) 話し合い活動を進め，新規に「人・農地プラン」を3地区が作成し，町「人・農地プラン」検討会において認定された。

(2) 新たに2地区が農地中間管理事業に取り組み，農地の利活用について検討する組合がそれぞれ設立され，農地の維持管理を共同で行うため農業機械の導入が図られた。

(3) 原地区においては，昨年度に続き今年度も「農地中間管理事業」に取り組み，地区内に2つ目の「農地利用組合」が設立された。

(4) 原地区では，園芸研修会（2回）や果樹の品評会が開催された。

(5) 原地区では，「水土里サークル活動」にも積極的に取組，共同活動として農道切り払い（支障木伐採）作業や台風・大雨時の緊急の復旧作業，鳥獣害防止柵の維持管理や侵入経路へのネット張り作業など実施した。

5 今後の課題

(1) 「人・農地プラン」の未策定地区への話し合い活動支援

(2) 樹園地マップや「農地中間管理事業」該当農地マップ等活用した農地利用の検討支援

6 農家の声

作業は大変で苦しいですが，休憩中には集落の未来についての話に会話が弾みます。活動から生まれる連帯感や活動の合間の語り合いから地域づくりへと繋がっています。原区では，高齢化に伴う遊休農地の増加が懸念されています。先人が残した財産を守るため，島の中心産業である観光業と連携した遊休農地発生防止の取組に挑戦していきます。

7 担当した普及職員（○はチーフ）

田淵，○上福元，徳田，眞正，入料



<農地情報を可視化して検討>



<園芸組合室内検討>



<作業の合間に集落の未来を語る>



<共同作業>



<湯泊集落で話し合い>



<小島集落で話し合い>

I 普及活動事例

課題名：屋久島の農林水産物を活かした食育・地産地消ビジネスの推進

1 対象 女性起業グループ8グループ，6次産業化農家及び志向農家11戸

2 課題を取り上げた背景

近年の農産物等の価格低迷により，管内でも農産加工や直売等の6次産業化に個別に取り組みたいという農業者が増えてきている。屋久島ではいち早く生産，農産加工・販売に取り組むモデル果樹農家もいる。平成24年度以降，3戸の農業者が六次産業化・地産地消法に基づく総合化計画の認定を受けた。

しかしながら，6次産業化に取り組むための専門的な知識・技術，手法，情報等に乏しく，スムーズな取り組みができていない。

直売や農産加工に取り組むための専門的な知識・技術，手法の習得等を支援するとともに，個別の6次産業化の取り組みや自然豊かな屋久島の恵み（屋久島の農林水産物・加工品）の販売を拡大するため，地域が一体となって取り組む体制を整え，支援を図る必要がある。

3 活動内容

(1) 農産物に付加価値をつけた商品づくりの支援

6次産業化に向けた専門的な知識，手法の習得にむけ研修を開催した。また，商品を売り込むために必要な商談会シートの作成を支援した。

商品性向上にむけてセミナーの開催や求評会や個別相談会の実施し，個別の課題や問題点の改題解決に向け，6次産業化プランナーからアドバイスしていただき，事後確認を行った。さらに，島内外の商談会に出展し販路拡大に向けた支援を行った。

月日	研修内容	講師等	参加者数
<6次産業化に向けた専門的な知識，手法の習得にむけた研修>			
1	8月25日 ～26日 【先進地研修】 研修先；鹿児島市，霧島市，日置市	黒酢の郷「桶志田」 道の駅たるみず (有)さくらじま旬彩館 農業大学校 (有)フレッシュ吹上 内牧場	11名
2	9月27日 【POP研修】 「POPとは」「パッケージに求められるものとは」「字体について」などの講義ポスターカラーマーカーを使用して文字を書く演習を行った。	「アトリエMie」 主宰 田中ミエ氏	34名
3	12月6日 【商談会シートの作成研修】 空欄がないように作成すること。身近な人最低5人から点検してもらうこと。	吉田要 県6次産業化プランナー	23名
<商品性向上にむけた研修等>			
1	7月22日 【売れる商品づくりについて】 売れる商品の鉄則「価格<価値」	島本一仁 中央6次産業化プランナー	20名
2	10月20日 【求評会】 評価員(右欄)に「味」「みため」「量」「価格」「市場性」「総合」の6つの視点で出品された商品全てを評価していただく。 <出品点数> 30品(果樹12,茶7,ウコン3,水産物4,郷土菓子2,他2)	島本一仁 中央6次産業化プランナー 町田哲朗 県6次産業化プランナー 梶原雄二 県6次産業化プランナー 田中ミエ アトリエMie主宰 町観光協会会長	30名
3	7月21日 10月21日 【個別相談会】	島本一仁 中央6次産業化プランナー 町田哲朗 県6次産業化プランナー 梶原雄二 県6次産業化プランナー	のべ24名
<販路拡大に向けた研修等>			
1	1月16日 ～17日 【「観光物産見本市2017」(東京)に出展】 <出展品>緑茶，紅茶，ウコン加工品，タンカン・ボンカン等加工品など		5名
2	2月9日 【自然の恵み商談会】 <出展者数>9事業者 <来場者数>16名(島内宿泊業者，お土産業者，6次産業化プランナー等)		37名

4 活動の成果

(1) 3回開催したセミナーにはのべ83名の参加，2回開催した個別相談会にはのべ24名の参加があり，個別の課題解決にむけ意欲的に取組まれるなど，色々な場面での支援を通じて，

- 商品化や品質向上へのきっかけづくりが提供できた。
- (2) 関係機関と連携し、中央や県の6次産業化プランナーを派遣していただき、専門家によるセミナーを開催できた。
 - (3) 商談会シートを作成し、島内外の商談会への参加を支援した。
 - (4) 商談会に来場した島内バイヤーの意見として、出品内容に対して全員が「興味あり」と回答し、今回の商談会に対しては、出品点数が少ないのが不満だが、今後開催あれば参加したいと回答し、出展者の取組をPRする機会を提供できた。
 - (5) セミナー参加者間の交流が図られはじめた。

5 今後の課題

- (1) さらなる販路拡大への取り組みと農産物の品質の向上への支援
- (2) 継続的な活動支援
- (3) 6次産業化志向農家等のネットワーク形成支援

6 農家の声

先進地研修先は、各事業者でそれぞれにあったやり方を模索し、見つけ出していた、わたしにもその必要があると感じました。様々な業者の方々と交流が重要、研修に参加して良かったです。商談会に参加して、現場でしか見えてこない問題点が発見でき、改善への意欲が生まれました。商品開発の難しさも感じました。参加してよかったです。

7 担当した普及職員（〇はチーフ） ○上福元，眞正



<POP研修中>



<商談会シート作成研修>



<求評会で評価中>



<桜島旬彩館前>



<先進地研修先にて>



<個別相談中>



<「観光物産見本市2017」(東京)に出展>



<「観光物産見本市2017」(東京)に出展>



<自然の恵み商談会にて商談中：安房>



<自然の恵み商談会にて商談中：安房>

II 実証・展示ほ等成績

課題名 ぼんかん優良系統の選抜

1 目的

ぼんかんは屋久島農業の基幹作目であるが、販売価格は低下傾向である。近年、高品質な果樹品種が育成され、各産地で導入が図られており、品目・品種間競争が価格低下の一要因ともなっている。

そのため、町内で栽培されているぼんかんの枝代わりを探索し、品質調査等を通じながら、優良系統を選抜し、競争力あるぼんかんの系統を育成する。

2 実証・展示ほの概要

(1) 設置場所及び担当農家

屋久島町尾之間試験園

(2) 設置の概要

- ア 対象作物：ぼんかん
- イ 品 種：町内枝代わり
- ウ 作 式：露地
- エ 区の構成：10系統30樹（3樹/系統）
- オ その他：施肥，管理は試験園慣行

3 活動経過および調査結果

(1) 活動経過

- ・平成20年11月26日，農業開発総合センター果樹部と連携し，町内において枝代わり探索し，該当枝にラベルした。探索の視点は，着色，食味とした。
- ・平成21年2月に，ラベルした枝を採取し，果樹部で苗木を作成した。
- ・作成した苗木30本（3樹/10系統）を，平成21年11月24日に町試験園に仮植，平成22年4月に定植した。
- ・シカ害による欠株が5株あり。

(2) 調査結果

- ・屋久島のぼんかんの理想は，12月20日までに8割程度出荷が済んでいることであるが，12月1日時点で選抜したぼんかんは，着色歩合が最高で5.7で，糖度は高い系統で10.8，クエン酸は1.0未満のものは少なく収穫可能な果実はなかった。
- ・選抜したぼんかんの系統番号N01，N03，N06，N09-1はスアガリが目立った。
- ・選抜したぼんかんは，樹が落ち着いてこないと本来の品質がでないのかもしれないが，現時点では，KS-15，KP-2が優れていると考えられた。
- ・薩州ぼんかんは，屋久島で従来から考えられているように12月中旬以降の品種で，12月1日収穫は難しかった。

表1 果実品質

系統名	横径	縦径	果径指数	果実重	果肉色	着色歩合	果色	スアガリ	糖度	クエン酸	着果果数	H26判定	H27判定	H28判定
1	75.4	72.7	104.0	185.0	7	2.6	4	2	9.2	0.98	71	×	×	×
2	75.1	63.0	119.4	172.6	8.6	1.6	2.4	0.5	9.8	1.50	109	◎	△	△
3	81.2	75.9	107.3	208.5	7	6	3.2	1.6	10.4	2.00	8	×	未着果	×
4	77.0	70.5	109.6	202.9	9	5.7	5.9	0.9	10.8	1.44	133	△	△	○
5	67.0	64.0	104.7	144.9	9	4	3	0.9	10.8	1.36	28	未着果	△	△
6	70.6	71.4	98.8	168.4	7	2.7	2.7	2.3	10	1.15	30	未着果	未着果	×
8	75.4	68.8	109.9	190.6	7	3.8	3.5	2	9.4	2.06	83	△	△	×
9-1	78.5	69.8	112.7	189.9	7	3.2	2.8	1.8	10.3	1.32	17	△	△	×
9-2	77.9	71.5	109.3	204.4	7	4.2	3.9	1.2	9.4	1.19	8	△	△	×
10	71.1	64.3	111.1	158.6	9	4.6	4.6	0.3	10.1	1.47	64	×	×	△
KS-15	79.0	67.2	117.9	204.0	9	9.7	7.1	0.7	11.3	0.89	-			
薩州	88.1	70.3	125.7	218.5	9	7.4	3.7	0.2	10.8	1.36	-			
KP-2	88.1	70.3	125.7	218.5	9	9	6.8	0.2	10.3	0.65	-			
備考	・収穫日：平成28年12月1日，KP-2は平成28年11月24日収穫(場所：永田地区) ・調査日：平成28年12月1日 ・す上がりは無：0，軽：1，中：2，甚：3の4段階で判定 ・果色はオレンジ色系カラーチャートで判定 ・調査果数は3樹合計，N06は1樹													

系統番号	園主名	備考
1	永田 洋吉	
2	永田 洋吉	
3	日高 洋一郎	
4	日高 洋一郎	
5	日高 清則	
6	逆瀬川 広之	
8	大山 一	
9-1	鎌田 イチ子	着果なし
9-2	鎌田 イチ子	
10	徳永 快行	

K S - 15 : 大田ぼんかんに放射線を照射して育成した品種。選抜前のK P - 2の親

K P - 2 : 農業開発総合センター果樹部育成品種

○参 考

撮影日：平成28年12月1日



系統番号1



系統番号2



系統番号3



系統番号4



系統番号5



系統番号6



系統番号8



系統番号9-1



系統番号9-2



系統番号10



K S - 1 5



薩州



K P - 2
(撮影：11月24日)
(収穫地：永田)

4 考 察

着色の早い系統を選抜したわけだが、12月1日収穫では、K S - 1 5 及びK P - 2 が優れていた。

5 普及性及び残された課題

- ・調査の継続

II 実証・展示ほ等成績

課題名 二番茶後深刈り更新園の整枝法～連年更新効果の検討～

1 目的

更新間隔は4～5年が一般的であるが、高品質で収量を確保した茶園づくりとして、更新間隔を短くする方法がある。ここでは、連年更新茶園の茶芽生育状況を把握し、屋久島地域版更新体系確立へ向けた資料とする。

2 実証・展示ほの概要

(1) 設置場所及び担当農家

屋久島町安房（平野） 日高要人氏

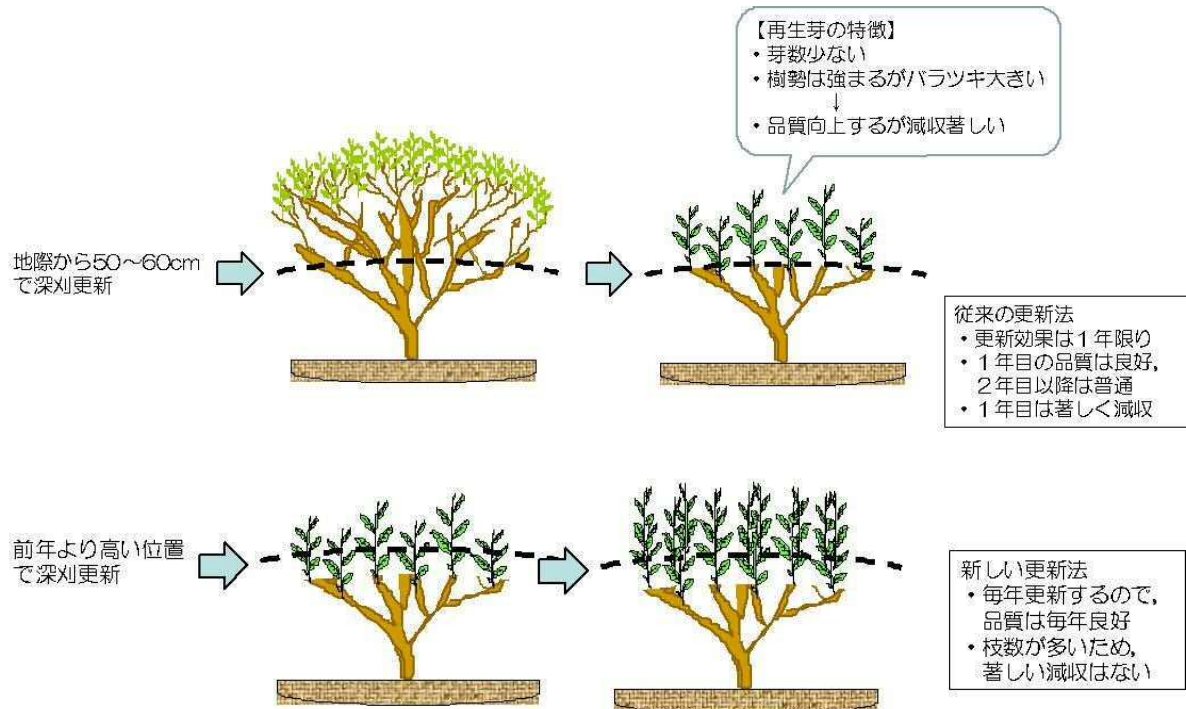
(2) 設置の概要

ア 品 種：さえみどり20a

イ 区の設定等

区 名	深刈り時期	深刈り位置
1年目更新	5月27日	約60cm
2年連続更新	〃	〃

ウ 処理内容のイメージ



3 調査結果等

- (1) 更新は、前年更新より高い位置で実施したため、1年目更新より2年連続が枝径は短く、枝数は多かった（表1）。
- (2) 2年更新園の再生芽萌芽は1週間程度早くなった。充実も早く、7/10に整枝を実施したため、2回整枝となった（写真）。
最終摘採後の枝条状況は、2年連続更新園の枝数が多かったが、葉はやや小型化した（表2）。
- (3) 秋芽生育は、台風16号（9/19）の潮風害を受けたため、調査できなかった。

表1 更新後の枝条状況

区名	高さ(cm)	20cm枠内		枝径(30本平均)
		枝数	うち枯死数	
1年目更新	60.3	24.7	2.0	3.1
2年連続更新	61.0	36.0	0.7	1.8



左：1年目更新 右：2年連続更新（ともに6/29撮影）

表2 最終摘採後（8/19）の枝条状況

区名	高さ(cm)	20cm枠内		
		切除枝	頂芽	総枝数
1年目更新	65.0	7.3	14.0	21.3
2年連続更新	65.0	23.0	10.3	33.3

4 考 察

- (1) 連年更新は再生が早いですが、想定以上に充実が進むため、整枝回数が増える場合もある。整枝回数が増えると、芽数型化するため収量増が見込めるが、品質はやや低下するため、収益性も含め評価しなかったが、潮風害により継続調査が出来なかった。
- (2) 連年更新は樹勢を維持しつつ一番茶収量確保が期待できる技術ではあるが、三番茶を摘採出来ない。経営体への技術導入を考慮すると、二番茶後深刈と三番茶後深刈（この場合の深刈位置はやや高め）のローテーションが理想と考えられる。

5 普及性及び残された課題

- (1) 次年度再調査（潮風害リスクを考慮した試験設計）
- (2) 二茶後深刈りと三茶後深刈りの組み合わせによる売上げ確保体系の確立（連年更新は再生が早いため、三番茶後更新でも日数的には間に合う）

II 実証・展示ほ等成績

課題名 微生物資材を活用したばれいしょそうか病対策の検討

1 目的

屋久島のばれいしょ栽培においては、そうか病等の発生が出荷量減少の原因の一つとなっている。そこで、微生物資材を活用したそうか病防除効果の検討を行う。

2 実証・展示ほの概要

(1) 設置場所及び担当農家

屋久島町原 安藤 清浩 氏

(2) 設置の概要

ア 品種名

ばれいしょ：ニシユタカ

イ 区の設定等

畑の精区：畑の精200L/10a 土壌混和 (20a)

ラクトバチルス区：ラクトバチルス800g, 硫安20kg (20a)

無処理区：無処理

ウ その他

定植日：10月15日

3 調査結果等

(1) 生育経過

植付後、平年より気温が約2℃前後高い状態が年明け1月中旬まで続き、さらに11月上旬からは日照時間が平年より短かった。そのような気象条件下で地域全体のばれいしょの生育は軟弱徒長の状態であり、12月上旬から1月中旬にかけて疫病の発生がみられた。

(2) そうか病発病度調査

そうか病発病度調査結果を行った結果、畑の精区が44.8、ラクトバチルス区が35、無処理区が37であり、畑の精区が発病度がやや高い数値となった。(表1)

表1 そうか病の発病指数別塊茎割合と発病度

区名	健全	I	II	III	IV	発病塊茎割合%	発病度
畑の精	10%	21%	49%	20%	0%	90%	44.8
ラクトバチルス	18%	36%	36%	10%	0%	82%	34.5
無処理	17%	24%	52%	7%	0%	83%	37.3

発病指数

健全

病斑なし

I

独立した病斑が3カ所

II

独立した病斑が4～10カ所

III

複数の癒合した病斑あり

IV

塊茎全体に癒合した病斑あり

$$\text{発病度} = (1 \times \text{I} + 2 \times \text{II} + 3 \times \text{III} + 4 \times \text{IV}) \div (4 \times \text{総個数}) \times 100$$



畑の精区



ラクトバチルス区



無処理区

4 考 察

- (1) 発病度調査結果より、畑の精区、ラクトバチルス区ともにそうか病発生を低く抑えることができなかった。実証試験を行ったほ場においては、そうか病発病割合が高いほ場であり、ばれいしょ栽培を休作したほうがよいと考えられた。
- (2) 生産者の意見より、そうか病発生割合は低く抑えられなかったが、畑の精区は生育状態が他の区と比較してよかったとのことであった。

5 普及性及び残された課題

- (1) 微生物資材を活用した対策について、そうか病発病割合が高いほ場では効果がみられず、普及性は低いと考えられた。
- (2) 屋久島地域では、これまで疫病発生が少なかったが、今作では、疫病発生が多く、そうか病発生以上に収量に大きく影響したことから、疫病対策を検討する必要がある。

Ⅲ 参考資料

【平成28年の主要作物生育経過】

果 樹

【ぼんかん】

開花は、平年より1日遅い4月18日が満開日で、着花量は全体的に中であるが、ぼんかんでは多い方であり、最終的な着果量は多くなった。

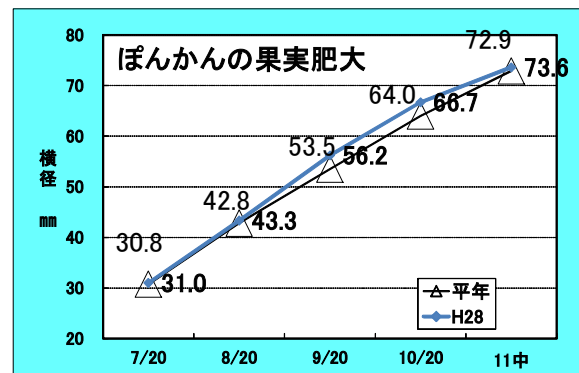
果実肥大は、温度が平年より高いこともあり、平年より肥大は良好であった。

糖度は平年並みであったが、クエン酸が高い状況であった。

収穫時期は暖冬の影響で着色が遅れ、価格の高い12月上旬の出荷が少なかった。

また、収穫後半は、腐れ果が発生した。

地区名	満開日	着花量
永 田	4月20日	少
湯 泊	4月16日	少
平 内	4月20日	中
小 島	4月17日	多
尾之間	4月16日	多
原	4月18日	中
高 平	4月19日	中
平 均	4月18日	中
平年	4月17日	



調査日：平成28年11月20日

		糖 度	クエン酸
ぼんかん	平成年28度	10.1	1.13
	平 年	10.1	0.87

【たんかん】

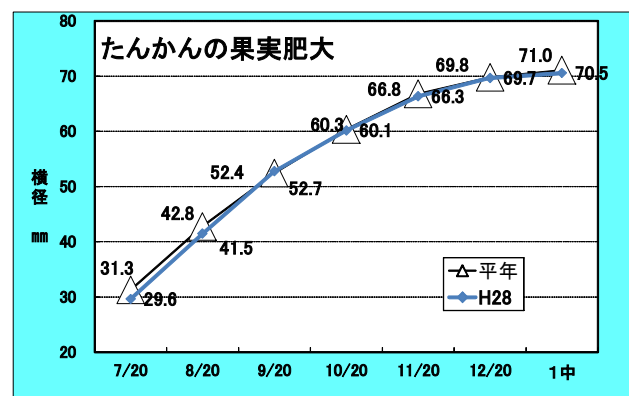
開花は、平年より3日遅い4月13日が満開日で、着花量は多い傾向であった。

果実肥大は、当初平年より悪かったが、温度が平年より高いこともあり、最終的に肥大は平年並みとなり、中心階級はL玉となった。

糖度は平年並みであったが、クエン酸が高い状況であった。

秋季後半（11月）にミカンサビダニが小発生した。

地区名	満開日	着花量
永田 海側	4月12日	中
永田 山手	4月19日	多
湯 泊	4月10日	多
平 内	4月18日	少
小 島	4月10日	極多
尾之間	4月14日	多
原	4月11日	極多
麦 生	4月10日	多
高 平	4月18日	中
平 均	4月13日	多
平年	4月10日	



調査日：平成29年1月20日

		糖 度	クエン酸
たんかん	平成28年度	10.3	1.08
	平 年	10.4	0.92

茶

一番茶は、1月24～25日の降雪、2月下旬の平均気温が低めで推移したこと、3月下旬から4月の冷え込みにより、萌芽及び萌芽以降の生育が緩慢で、摘採開始は前年より6日遅い4月4日となった。品質は、摘採期間中の日照不足による色乗り不足が懸念されたが、芽格重視の生産を行い、市場での高い評価を維持できた。収量は、前年と比較しやや増加したが、ほ場によるバラツキが見られた。

二番茶については、4月の気温は高かったものの、日照時間が短く生育が緩慢で、一番茶摘採後45日後の5月19日(前年+9日)の摘採開始となった。また、三番茶については、二番茶摘採後39日後の6月27日(前年+5日)から、四番茶については、三番茶摘採後35日後の8月1日(前年-3日)から摘採開始となった。二番茶は収量重視の生産により増収となったが、樹勢回復を目的に深刈更新する茶園が多かったため、三・四番茶は減収傾向となった。

病害虫の発生状況は、8月の干ばつが大きく影響し、虫害が多かった。

野菜

【ばれいしょ】

10月中旬に植付後、平年より気温が高い状態が続き、ばれいしょの生育は全体的に軟弱徒長の状態であり、害虫による食害も多く、11月下旬からは疫病の発生が見られた。また、12月中旬、1月上旬の強風による茎葉の折損があり、地域全体に病害が見られた。出荷量は計画数量495 tより少なくなる見込みである。

【やまいも】

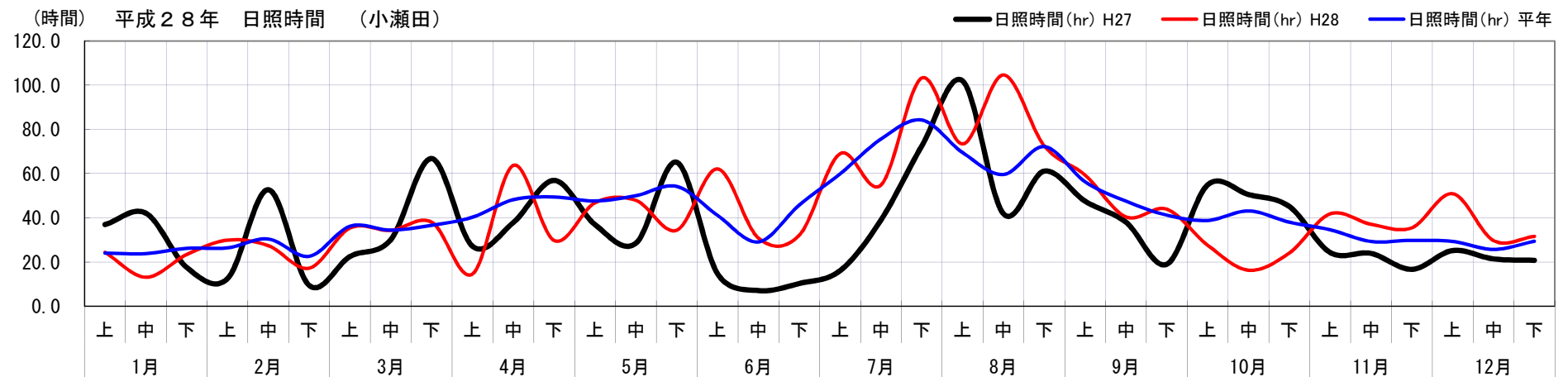
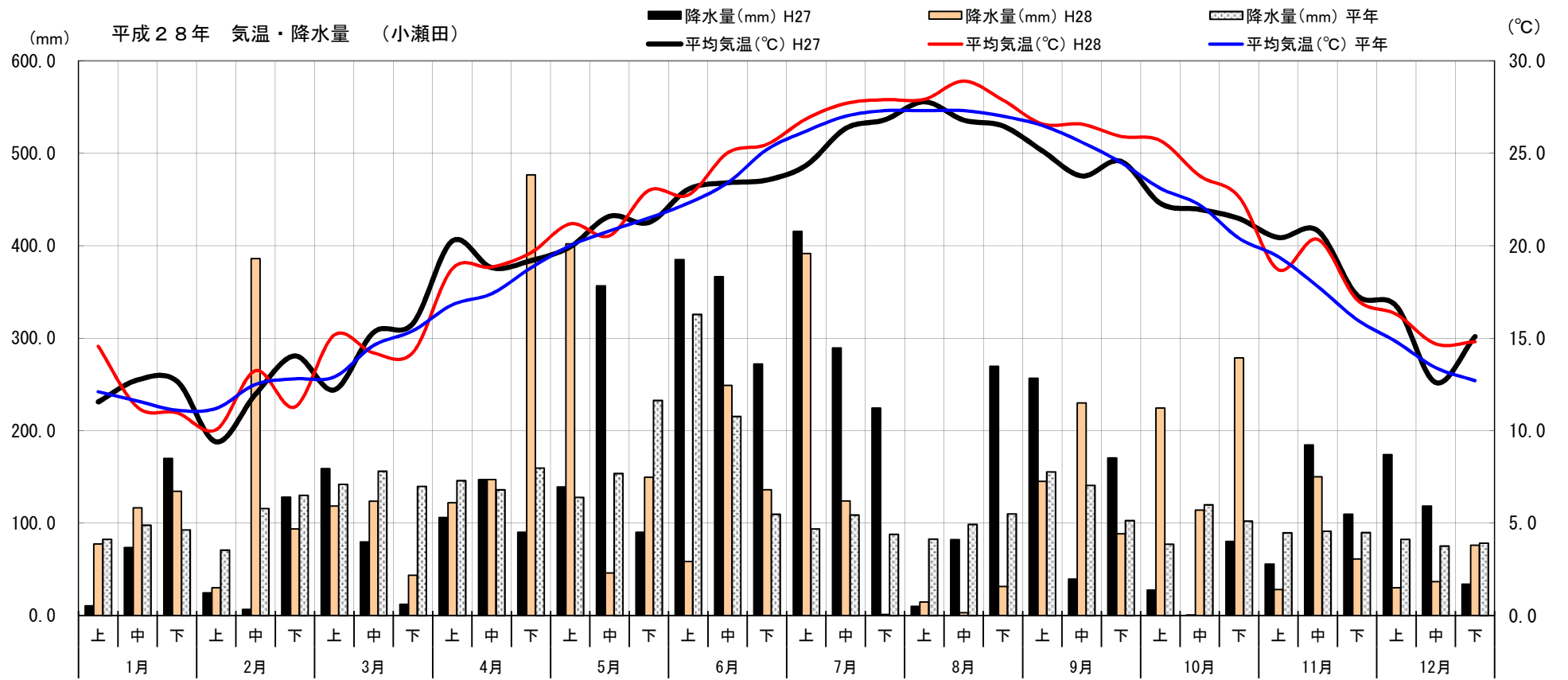
4月末から5月上旬にかけて植付され、その後、6月と7月下旬から8月にかけて降水量が少ない状況が続いた。9月上旬、9月中旬に台風が襲来し、一部、潮風害の発生と軽度の茎葉の傷みが見られた。例年、屋久島北部が11月下旬から出荷を始めるが、今年度は11～12月の気温が平年よりも高く、茎葉の枯れ上がりが少なく、12月中旬から出荷が始まった。1月以降、屋久島南部の出荷が始まり、潮風害の影響も少なく、出荷量は計画数量49 tより多い、昨年の生産量並み60 tが見込まれる。

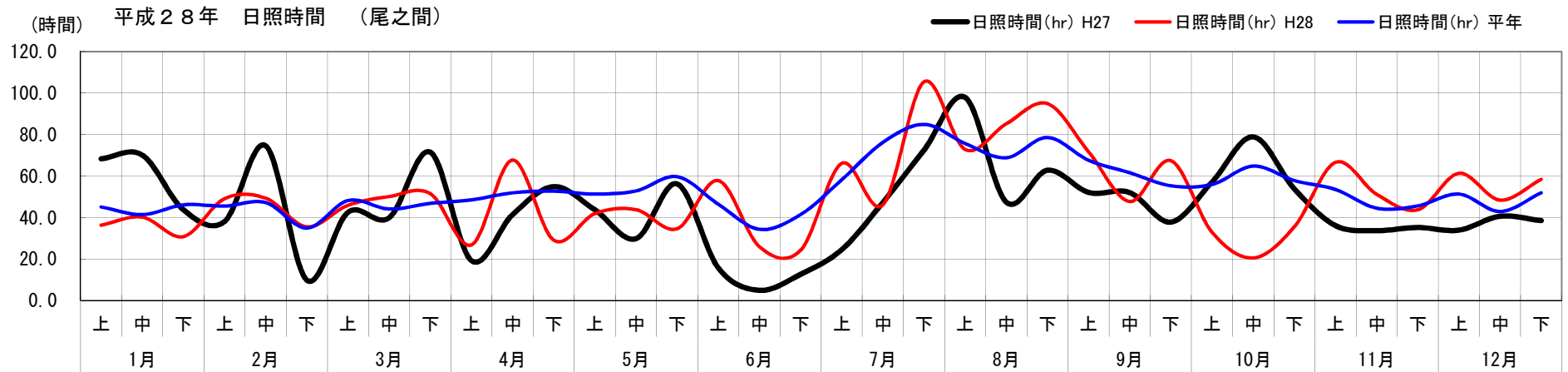
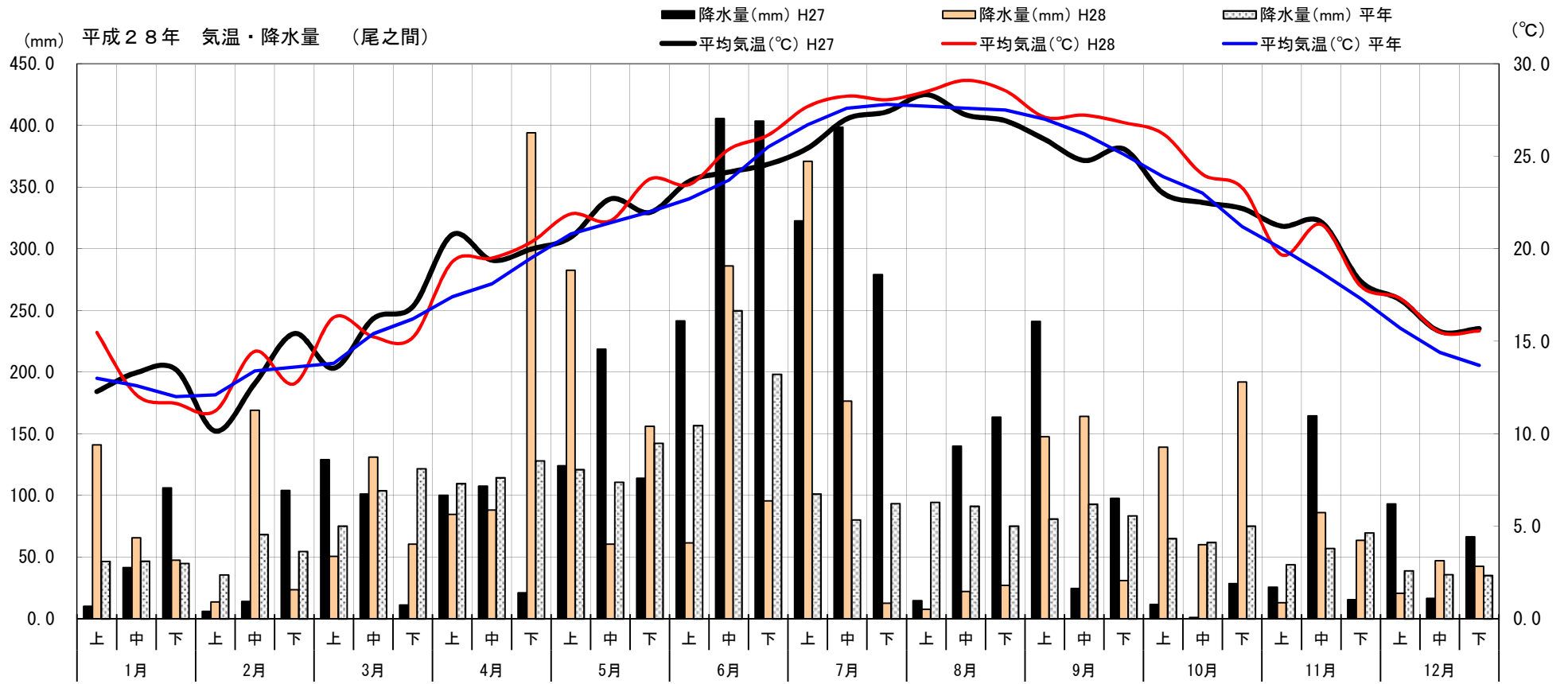
【さつまいも】

4月下旬から植付が始まり、初期生育は順調であった。梅雨に入った6月以降、降雨量が少なく、7月下旬から8月にかけては葉のしおれ症状がみられた。9月上旬、9月中旬に台風が襲来し、一部のは場で潮風害がみられた。9月中旬から10月にかけて平均気温が平年より高い状況が続き、11月上旬は平年並みとなったが、11月中旬から12月にかけて平均気温が高い状況が続いた。1月から本格的な出荷となり、例年並みの収量となった。

【実えんどう】

10月上旬から播種が始まり、発芽揃いも良好で初期生育は順調であった。11月中旬以降、気温が高く、草勢が弱く、1月に入ってから品種「ミナミグリーン」では心どまり症状がみられた。年明け以降、気温が高かったことから、害虫発生も多く、一部、褐紋病・褐斑病の発生も見られた。出荷量は計画数量31.6 tより少なくなる見込みである。





ミカンコミバエ種群発生及び防除対策

●屋久島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況（植物防疫所HPより抜粋）

平成29年2月13日現在
(単位:匹)

		4/1 ~4/11	4/12 ~5/23	5/24 ~5/30	5/31 ~6/13	6/14 ~6/20	6/21 ~6/27	6/28 ~7/18	7/19 ~7/25	7/26 ~8/1	8/2 ~8/8	8/9 ~8/15	8/16 ~8/22	8/23 ~8/29	8/30 ~9/5	9/6 ~9/12	9/13 ~9/19	9/20 ~9/26	9/27 ~10/3	10/4 ~10/10	10/11 ~10/17	
屋久島県	熊毛郡 豊久島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		10/18 ~10/24	10/25 ~10/31	11/1 ~11/7	11/8 ~11/14	11/15 ~11/21	11/22 ~11/28	11/29 ~12/5	12/6 ~12/12	12/13 ~12/19	12/20 ~12/26	12/27 ~1/2	1/3 ~1/9	1/10 ~1/16	1/17 ~1/23	1/24 ~1/30	1/31 ~2/6	2/7 ~2/13	合計
屋久島県	熊毛郡 豊久島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※誘殺が確認された場合は、トラップの埋め、テラス網の敷布及びベイト剤の敷布等の防除対策を実施している。
※平常時の調査(初調査の埋め時以前及び1/14の緊急防除開始後)は、月2回の頻度で実施しており、数を取り忘れ、調査を実施していない日も誘殺数が「0」と表記している。

●ミカンコミバエ種群の防除対策

(1) 発生状況調査

- ・トラップ設置による発生状況調査（トラップ76カ所：平成28年7月11日まで週2回調査，トラップ33カ所：平成28年7月21日から月2回調査）



トラップ設置



ミカンコミバエ雄成虫

(2) 寄主果実調査及び寄主果実除去

- ・ミカンコミバエ種群の好適寄主果実（キンカン、グアバ、ぽんかん、たんかんなど）を採集後、5～6日保管後、切開調査
- ・来春の羽化数を削減するため、家庭果樹の自主的除去の徹底



寄主果実調査



寄主果実除去

(3) 雄成虫の駆除

- ・誘引剤及び殺虫剤を染みこませたテックス板の設置

第1回目：11,439枚（平成27年11月25日～12月7日設置）

第2回目：13,379枚（平成28年1月9日～2月9日設置）

第3回目：11,250枚（平成28年2月11日～3月8日設置）

第4回目：12,300枚（平成28年3月11日～3月22日設置）

第5回目：12,850枚（平成28年4月9日～4月23日設置）

第6回目：12,300枚（平成28年5月11日～6月10日設置）



テックス板準備



テックス板設置方法説明



班体制による防除作業



テックス板設置

(4) 雌成虫の駆除

- ・寄主果実への産卵を防止するために、ベイト剤（成虫の殺虫）の散布



地図を用いて散布場所確認



ベイト剤散布

(5) ほ場等の衛生管理

- ・かんきつ類の生産者に対し、落果、収穫漏れ果実の除去等の協力呼びかけ（屋久島町防災無線、町報、フルーツ情報誌、普及だより等活用）
- ・放任園対策については、町を通じて、地元住民の協力を得て、放任園所有者の特定し、果実除去、伐倒等の防除活動の実施

●作業経過

日時	作業	作業内容	班編制	
11月20日	金	トラップ設置	永田、尾之間にトラップ2基設置	屋久島事務所 2名
11月21日	土	トラップ設置、 トラップ調査	屋久島地区外周、安房誘殺地点周辺トラップ33カ所設置	町1, 植防1, 屋久島事務所2, 食推1 合計5名
11月22日	日	トラップ調査	全トラップ33カ所調査	町2, 植防1, 屋久島事務所2, 食推1 合計6名
11月23日	月	トラップ増設	トラップ調査, トラップ17カ所増設	町1, 植防2, 屋久島事務所1 合計4名
11月24日	火	トラップ移設	安房設置21基の内8基を選定し 湯泊4カ所に移設	小瀬田～永田 安房～栗生 1班2名 1班3名
11月25日	水	トラップ調査	永田・南部地区トラップを調査 栗生4カ所に移設	小瀬田～永田 安房～栗生 1班2名 1班3名
		テックス板準備・設置	テックス板(1,000枚)に針金を通し10本束にする(設置準備) 栗生, 湯泊地区に350枚設置(栗生90枚, 湯泊260枚)	栗生 湯泊 1班3名 1班4名
11月26日	木	テックス板準備・設置	テックス板に針金を通し10本束にする(設置準備) 栗生に705枚設置, 中間30枚設置	町4, JA6, 植防4, 熊毛支庁1, 屋久島事務所2 合計17名
		寄主果実採集	栗生: 誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	
11月27日	金	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		テックス板設置	永田: 1, 242枚設置	町25, 植防6, 熊毛支庁1, 屋久島事務所3 合計35名
11月28日	土	寄主果実採集	永田: 誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	屋久島事務所2名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	
11月29日	日	テックス板設置	湯泊: 422枚設置, 中間: 352枚設置 平内: 714枚設置, 小島: 273枚設置	町16, JA11, 植防6, 熊毛支庁1, 防除所1, 屋久島事務所11 合計46名
		寄主果実採集	湯泊, 中間地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町16, JA11, 植防6, 熊毛支庁1, 防除所1, 屋久島事務所11 合計46名
11月30日	月	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		テックス板設置	尾之間: 560枚設置, 原: 544枚設置, 麦生: 606枚設置, 高平: 300枚設置 平野: 496枚設置, 春牧: 635枚設置 安房: 422枚設置, 松峯: 338枚設置 永久保: 285枚設置, 船行: 249枚設置	町30, JA12, 農家40, 植防6, 熊毛支庁1, 防除所1, 屋久島事務所11 合計101名
11月30日	月	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		テックス板設置	西部林道: 160枚設置, 吉田: 50枚設置 一湊: 238枚設置, 志戸子: 160枚設置 宮之浦: 622枚設置, 楠川: 280枚設置 榑川: 227枚設置, 小瀬田: 285枚設置 長峰: 554枚設置	町15, 植防6, 防除所2, 屋久島事務所13 合計36名
12月1日	火	果実切開調査	永田: 誘殺地点半径2kmの寄主果実の切開調査	植防4名
		寄主果実採集	安房: 誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町5, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所4
12月2日	水	テックス板設置	口永良部島: 100枚設置	屋久島事務所2名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月2日	水	寄主果実除去	永田地区の誘殺地点半径1kmの寄主果実除去	町30, JA6, 植防6, 防除所1, 屋久島事務所12, 経済連9, 食推1 合計65名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月3日	木	ベイト剤散布	永田: 寄主果実除去後, ベイト剤散布	町30, JA6, 植防6, 防除所1, 屋久島事務所12, 経済連9, 食推1 合計65名
		寄主果実除去	栗生, 中間地区の誘殺地点半径1kmの寄主果実除去	町25, JA5, 植防3, 防除所1, 屋久島事務所12, 経済連10, 食推1 合計57名
12月3日	木	果実切開調査	湯泊: 誘殺地点半径2kmの寄主果実の切開調査	植防3名
		テックス板増設	栗生地区へのテックス板増設: 100枚設置	町3名
12月4日	金	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		ベイト剤散布	湯泊集落内ベイト剤散布	町6, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所5 合計16名
12月4日	金	テックス板増設	湯泊集落内へのテックス板増設: 100枚設置	町6, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所5 合計16名
		トラップ設置	口永良部島1カ所トラップ設置	町1名
12月7日	月	寄主果実除去	湯泊: 寄主植物除去	町4, 植防2, 屋久島事務所2 合計8名
		寄主果実除去	湯泊: 寄主植物除去 中間集落内ベイト剤散布(8地点)	町4, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所2 合計11名
12月8日	火	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		寄主果実除去	永田: 寄主植物除去(22地点)	町4, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所5 合計14名
12月9日	水	寄主果実除去	永田(13地点), 栗生(13地点): 寄主植物除去, ベイト剤散布	町6, 植防2, 防除所1, 屋久島事務所4 合計13名
		トラップ調査	全トラップ68カ所調査 永田移設(20→19), 深川, 楠川, 榑川, 平内に各1新設 全トラップ68カ所→71カ所	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月10日	木	寄主果実除去	栗生(3地点), 湯泊(3地点), 中間(10地点): 寄主植物除去	町6, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所5 合計16名
12月11日	金	果実調査	安房地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町6, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所4 合計15名
12月11日	金	トラップ調査	全トラップ71カ所 調査 堆肥センター2カ所に各1増設(71→73)	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月14日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月16日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月18日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月19日	土	果実調査	原, 尾之間, 麦生, 一湊地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町30, 植防5, 防除所3, 屋久島事務所27 合計65名

日時	作業	作業内容	班編制
12月21日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
12月23日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
12月24日	木	果実調査(切開)	原, 尾之間, 麦生, 一湊地区の果実切開調査
12月25日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所 調査 安房(13→11)から中間に2基移設 永田ベイト剤散布, 選果場モニタリング
12月28日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月4日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月6日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月8日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
		ベイト剤散布	永田, 栗生 誘殺トラップ周辺
1月9日	土	テックス板設置	高平350枚, 平内750枚, 宮之浦650枚, 春牧650枚
1月10日	日	テックス板設置	永久保300枚, 栗生900枚, 原650枚
1月11日	月	テックス板設置	永田1, 250枚, 安房450枚
		トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月12日	火	テックス板設置	麦生650枚, 中間520枚, 湯泊900枚, 西部林道200枚
1月13日	水	テックス板設置	一湊300枚, 志戸子200枚, 松峯400枚, 小島600枚, 平野500枚
		トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月14日	木	テックス板設置	楠川300枚, 楯川300枚, 船行300枚, 宮之浦増設59枚
1月15日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月16日	土	テックス板設置	小瀬田300枚, 長峰600枚
1月17日	日	テックス板設置	吉田150枚
1月18日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月20日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月21日	木	テックス板設置	尾之間 750枚
1月22日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月27日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査
1月29日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査 永田7→永田21へ移設 西部林道2カ所に増設
2月1日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所調査
2月4日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所調査
2月8日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所調査
2月9日	火	ベイト剤散布	永田地区廃園周辺5km四方
		テックス板設置	永田地区廃園 テックス板300枚設置
		ベイト剤散布	永田地区廃園 ベイト剤散布
		寄主果実除去	永田地区廃園果実除去(ぼんかん)
2月11日	木	テックス板設置	宮之浦650枚
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
2月12日	金	テックス板設置	長峰500枚, 中間500枚
2月13日	土	テックス板設置	高平350枚, 原650枚
2月14日	日	テックス板設置	栗生900枚, 春牧650枚, 松峯400枚
2月15日	月	テックス板設置	湯泊900枚, 麦生650枚, 安房450枚, 楯川300枚
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
2月17日	水	ベイト剤散布	永田地区廃園周辺 5km四方
		テックス板設置	西部林道200枚, 船行300枚, 一湊300枚, 平内750枚
		寄主果実除去	永田地区廃園果実除去(ぼんかん)
2月20日	土	テックス板設置	永田1, 250枚
2月21日	日	テックス板設置	尾之間750枚, 永久保300枚
2月22日	月	テックス板設置	志戸子200枚, 小瀬田300枚
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
2月24日	水	テックス板設置	楠川300枚
2月25日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
		テックス板設置	吉田200枚
2月29日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
3月1日	火	ベイト剤散布	栗生, 中間地区
		ベイト剤散布	湯泊地区(一部実施)
3月2日	水	ベイト剤散布	湯泊地区(一部実施), 中間(大久保線)
3月3日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
3月7日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
		テックス板設置	口永良部島100枚

日時	作業	作業内容	班編制
3月8日	火	寄主果実調査 寄主果実採集(一湊, 尾之間地区)	植防3, 屋久島事務所4, 防除所1, 町13 合計21名
	火	寄主果実調査 寄主果実採集(麦生, 原地区)	植防3, 屋久島事務所4, 防除所1, 町12 合計20名
3月10日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
3月11日	金	テックス板設置 吉田200枚	町2, 集落受託1 合計3名
3月12日	土	テックス板設置 宮之浦650枚, 高平350枚	町2, 集落受託12 合計14名
3月13日	日	テックス板設置 原650枚, 安房450枚, 春牧650枚, 松峯400枚, 永久保300枚	町5, 集落受託32 合計37名
3月14日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
	月	テックス板設置 湯泊900枚, 小島600枚, 平野500枚	町3, 集落受託17 合計20名
3月15日	火	テックス板設置 麦生650枚	町1, 集落受託9 合計10名
3月16日	水	テックス板設置 長峰500枚, 船行300枚, 西部林道250枚	町2, 集落受託6, 植防1, 屋久島事務所2 合計11名
3月17日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
	木	テックス板設置 一湊300枚, 小瀬田300枚	植防2, 町2, 集落受託6 合計10名
3月18日	金	テックス板設置 志戸子200枚	植防2, 町1, 集落受託2 計5名
3月19日	土	テックス板設置 永田1, 250枚	町1, 集落受託29 計30名
3月20日	日	テックス板設置 尾之間750枚, 栗生900枚	町2, 集落受託34 計36名
3月21日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防2 計2名
	月	テックス板設置 楠川300枚	町2, 集落受託2 計4名
3月22日	火	テックス板設置 中間500枚	植防3, 町1, 集落受託8 計12名
3月24日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
3月28日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月4日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月7日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所2 3名
4月9日	土	テックス板設置 小島600枚	集落受託6 6名
4月10日	日	テックス板設置 高平350枚, 原650枚, 栗生900枚	町3, 集落受託24 27名
4月11日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
	月	テックス板設置 麦生650枚	町1, 集落受託10 11名
4月12日	火	テックス板設置 吉田200枚, 湯泊900枚, 志戸子200枚	町1, 集落受託13, 植防2 16名
4月13日	水	テックス板設置 中間500枚	町1, 集落受託10 11名
4月14日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月15日	金	テックス板設置 平内750枚, 平野500枚, 安房450枚, 松峯400枚, 船行300枚, 長峰500枚	町1, 植防1, 集落受託30 32名
4月16日	土	テックス板設置 春牧650枚, 小瀬田300枚, 楠川300枚, 宮之浦650枚	町3, 集落受託22 25名
4月17日	日	テックス板設置 尾之間750枚, 永久保300枚	町2, 集落受託26 28名
4月18日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月20日	水	テックス板設置 楠川300枚, 西部林道200枚	町2, 集落受託2, 屋久島事務所2 6名
4月21日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月23日	土	テックス板設置 永田1250枚	町1, 集落受託28 29名
4月25日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
4月28日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月2日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防2 2名
5月6日	金	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	屋久島事務所2 2名
5月9日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月12日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月16日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月17日	火	テックス板設置 林道(栗生241枚, 中間70枚, 永田150枚)	植防4, 町4, 集落受託2, 屋久島事務所4 14名
5月19日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月23日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月23日	月	テックス板設置 口永良部島100枚	町1
	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月26日	木	寄主果実調査 栗生地区(34カ所, 955果, 13種類)	町5, 植防4, 防除所1, 屋久島事務所5 15名
		寄主果実調査 中間地区(22カ所, 490果, 16種類)	
		寄主果実調査 湯泊地区(71カ所, 4633果, 11種類)	
5月27日	金	寄主果実調査 永田地区(71カ所, 3437果, 11種類)	町4, 植防5, 防除所1, 屋久島事務所5 15名
5月28日	土	テックス板設置 高平350枚, 松峯400枚, 宮之浦650枚	町1, 集落受託22 23名
5月30日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
5月30日	月	テックス板設置 湯泊900枚, 平内750枚	町1, 集落受託13 14名
6月1日	水	テックス板設置 麦生650枚, 長峰500枚, 平野500枚	町3, 集落受託19 22名
6月2日	木	テックス板設置 中間500枚, 吉田200枚, 楠川300枚	町2, 集落受託15 17名
6月2日	木	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
6月3日	金	テックス板設置 一湊300枚, 安房450枚	町1, 集落受託5 6名
6月4日	土	テックス板設置 永田1250枚, 小島600枚, 原650枚	町2, 集落受託16 18名
6月5日	日	テックス板設置 小瀬田300枚, 志戸子200枚, 楠川300枚, 永久保300枚, 春牧650枚, 尾之間750枚, 栗生900枚	町6, 集落受託43 49名
6月6日	月	トラップ調査 全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 2名
6月7日	火	テックス板設置 船行300枚	町1, 集落受託3 4名

日時	作業	作業内容	班編制
6月9日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月9日	木	テックス板設置	西部林道200枚
6月13日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月16日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月17日	金	寄主果実調査	吉田, 志戸子, 宮之浦, 楠川, 榑川, 小瀬田, 長峰, 永久保, 船行, 松峯, 安房, 春牧, 平野, 高平, 小島, 平内
6月20日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月23日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月27日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
6月30日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
7月4日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
7月7日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
7月11日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査
9月9日	金	テックス板回収	林道: 永田120枚回収, 中間・栗生152枚回収, 西部林道243枚回収

● 防除対応終了までの経過

平成27年11月21日, 県が屋久島町安房に設置したミバエ類侵入警戒トラップにミカンコミバエ種群2頭の誘殺が確認された。本種の誘殺に伴い, 発生確認調査及び防除対策を実施し, 最終誘殺確認日の平成28年1月6日以降, 平成28年7月11日まで誘殺ゼロが続いた。

平成28年7月13日に開催されたミカンコミバエ種群防除対策会議(農林水産省)において, 同種群の発生終息とすることが妥当と判断されたことにより, 屋久島町における防除対応が終了した。

【ミニ情報でつづるこの1年】

4月



＜屋久とろ原料「ソロヤム」出荷実績好調！＞

屋久島の特産品である屋久とろの原料「ソロヤム」の27年産出荷が3月終了した。27年度は、6月の長雨、10～11月の高温、1月の降雪等異常気象の続いた1年であったが、台風による被害がなかったことが幸いし、出荷実績は昨年度を大幅に上回る65 t（計画比129%、昨年比213%）であった。農林普及課では、収量・品質の向上対策として、優良種苗供給体系が継続できるよう支援していく。

＜たんかん・ぽんかんは開花やや遅いが、花多し＞

本年度は3月下旬の平均気温が1.2℃低かったこともあり、たんかんは平年より3日遅い4月13日が満開となった。着花量は全体的に多い状況。ぽんかんは平年より1日遅い4月18日が満開となった。着花量はたんかんほどではないが多い状況であり、平成26年度の台風被害から回復しつつある状態と考えられる。

＜走り新茶スタート！天候に恵まれ品質上々＞

走り新茶産地である屋久島の一番茶が4月4日からスタートした。本年は、積雪や2月の低温により萌芽時期が遅れ、さらに3月下旬の気温が低く推移したことで新芽の生育が緩慢となり、摘採開始は前年と比較して6日遅かったが、荒茶品質は、強風による葉痛みなど無く、味・香りに優れている。走り新茶は、全県的な本年産茶の品質を占う上でも重要な役割を担っており、今後も期待に応えられる産地を維持できるよう支援していく。

＜屋久島子牛が44頭上場、子牛育成技術改善が課題！＞

4月21～22日、種子島家畜市場において、子牛せり市が開催され、屋久島から口永良部島子牛5頭を含む44頭を売却した。屋久島本島の子牛は、昨年7～8月生まれを中心に出荷され、平均743千円（前回比13千円高）で取引された。屋久島和牛振興会の繁殖技術は高く、今回の市場で表彰されたが、子牛育成技術は十分とはいえず、3戸を重点対象として4月から毎月1回検討を行い、農林普及課を中心とした関係者で向上対策を図る。

5月



＜屋久島産一番茶品質を相互検討＞

5月11日に、屋久島で一番茶互評会が開催され、町茶業振興会会員、関係機関等計21名が参加した。審査員4名から、生葉原料の品質を最大限引き出す蒸熱・乾燥方法等についてアドバイスがあり、参加者は熱心に質問していた。また、当課から、二番茶の最重要課題として芽揃え対策を挙げ、園揃えの時期及び位置について説明した。



＜たんかん2年連続減収＞

27年度産たんかんのJA種子屋久屋久島支所の販売実績は、平成26年度の台風の影響で着花が少

なかったこともあり、出荷量279.9t(前年比77%)、販売金額103,998千円(前年比82%)となった。出荷量は、老木が多くなったこともありピーク時の半分以下となった。今後、ブランド産地維持のために、改植を進めながら、産地の若返りを関係機関一体となり取り組んでいく。

<湯泊集落いけんかすっ会～今後の活動はいかに～>

4月26日、湯泊地区いけんかすっ会の総会が湯泊生活館で開催された。会員7名(10名中)出席。H27年度は、焼酎用や青果用さつまいもの栽培、たんかんジュースの試作に取り組み、H28年度も活動を継続させ、たんかんジュースについては販売用として取り組むこととなった。当会は、5年前から毎月1回、耕作放棄地の解消や廃園対策等の話し合いを行い、関係機関もその活動を支援してきた。自主活動を促し、今年度からは、要請があれば対応する支援体制とした。

6月



<屋久島町に畑かんがやってくる！>

6月3日に、県営中山間地域総合整備事業説明会が開催され、受益予定者、関係機関等計22名が参加した。旧屋久町内89.6haが受益地域となる。平成31年から一部通水へ向け、主に茶園における水利用計画が紹介された。参加者からは、水を利用した害虫防除など多くの質問があり、関心の高さが伺えた。世界自然遺産ならではの、化学農薬を削減した環境に優しい栽培管理向上へ向け、支援していきたい。

<6次産業化への取組支援、始動。>

町では、農林水産物の付加価値を高め商品性向上や販路拡大を目指して、昨年度から県の地域振興推進事業を活用し「屋久島自然の恵み販売拡大促進事業」に取り組んでいる。6月3日、関係者15名が集い町安房支所にて昨年度の活動反省や今年度の計画について検討した。今年度は、より多くの仲間とともに商品性向上に向けた研修や島内での商談会の開催などが計画されており、今後も農業・農村の活性化が図られるよう支援していく。

<複式簿記記帳を学び、経営管理の基礎固めをしよう！>

平成28年6月27日～7月1日の5日間、平成28年度パソコン簿記初級研修が開催され、6戸7名が参加した。参加者は就農給付金受給予定者や簿記記帳未経験者で、今後パソコンによる複式簿記で、記帳・申告を完全に行うため熱心に取り組んでいた。年々、受講者は増えてきており、農業普及係では、決算をもとにした簡単な経営診断まで誘導する計画である。

<〇永良部島の営農活動状況>

島内における営農活動状況は、肉用牛飼養農家は4戸であり、飼養頭数は1年前と比較すると、ダニによるピロプラズマ病等で繁殖牛が16頭減少し28頭となった。また、〇永良部島活性化事業組合（地域おこし団体）が焼酎用さつまいも約45a、ガジュツ約90aを栽培している。6月25日、〇永良部島住民に対する避難指示が寝待地区を除き解除され、農業普及係では、放牧形態での飼養管理指導、焼酎用さつまいもの苗確保支援、栽培管理指導を行っている。





＜気象災害に負けないばれいしょ・実えんどうづくりを目指そう＞

7月6日、第38回屋久団地野菜部会通常総会が屋久島町営農支援センターで開催され、会員を含め19名が参加した。27年度は、ばれいしょ・実えんどうともに例年にない気象変動により、病害発生も多く、さらに寒波による茎葉の枯れ、霜莢等の発生により収量は低かったが、安定した価格で販売することができた。次年度は、ばれいしょ生産量470t、実えんどう生産量31.5tを目標に気象災害に負けない野菜生産に取り組んでいく。

＜農作業事故防止研修会＞

7月26日、屋久島町認定農業者を対象に、屋久島町営農支援センターにて農作業事故防止研修会が開催され、45名の参加があった。講師に農業開発総合センターの白澤主任農業専門普及指導員を招き、研修内容は、農作業事故の発生状況、事故事例から学ぶ安全対策、草刈り機・トラクタの安全な取り扱い方及びメンテナンスについてであった。農林普及課では、これまでと同様、農作業事故ゼロを目指し、あらゆる機会を通じて農作業事故防止啓発活動を行う。



＜6次産業化にむけ個別相談会とセミナー開催＞

7月21日～22日、町営農支援センターにて地域振興事業の屋久島自然の恵み販売拡大事業を活用した個別相談会と第1回セミナーを開催した。今回の講師は、県6次産業化サポートセンターを介して中央の6次産業化プランナーである島本一仁氏を招き、個別相談会には6名が1時間ずつ相談し、セミナーでは「売れる商品づくり」と題して講義し、農家をはじめとする様々な業種の方が20名参加した。今後は、参加者間のネットワークを構築しながら6次産業化を支援を行う。

＜改植で産地の若返りを！＞

7月14日JA種子屋久屋久島果樹部会通常総代会が開催された。部会員は232名で年々減少している。平成27年度の販売実績は、ぼんかん46,704千円、たんかん103,998千円でこちらも年々減少している。部会員の高齢化や老木による生産量の減少が、主因である。農林普及課では、改植事業への取組支援や屋久島たんかんのブランド再認定に向けた支援を行っていく。

＜Welcome New Farmers! 平成28年度新規就農者励ましの会を開催＞

7月26日、屋久島町営農支援センターで新規就農励ましの会を開催し、指導農業士、青年農業者、女性農業経営士、認定農業者、関係機関等計45名が出席し、新規就農者の門出を祝った。本年度の対象者は2名で「色々アドバイスを受けながら、地域に役立ちたい」等の抱負が語られた。今後、関係者一体となって、生産技術、経営面等の早期確立に向けた支援を行う。



＜健康な屋久島子牛づくりに励もう！＞

7月20日、町営農支援センターにおいて、第39回屋久島町和牛振興会総会が開催され、生産者1

5名が参加した。総会では、平均分娩間隔355日の生産者が表彰されるなど、高生産技術の維持啓発がなされた。農林普及課から、子牛価格好況の中で子牛疾病の予防、減少のため、のこくずの活用や子牛育成管理の取組について講話をした。今後も個々の経営状況を検討したうえで、健康な屋久島子牛づくりを支援する計画である。

<屋久島認定農業者の活動と意欲を再確認>

7月26日、屋久島町認定農業者連絡協議会総会を開催し、認定農業者31名が参加した。会長から「自然の恵みと脅威を乗り越え、共存する屋久島農業」と挨拶された後、27年実績と28年計画が協議された。今後も関係機関と連携を図り、研修会の企画立案、意識度の把握や、今後の認定農業者組織の育成と個別指導に活かす計画である。

8月



<たんかん・ぽんかんの老木は、積極的に改植を！>

8月25日、果樹関係の改植事業等説明会を開催し、67名の生産者が参加した。同時にトロイヤールシトレンジ台木たんかんの苗木の生産状況を県庁花き果樹係から説明を受けた。屋久島では、改植事業の取組は近年なく、たんかん、ぽんかんは老木のため生産量が減少している。今後、積極的に事業に取り組み、産地の若返りを支援していきたい。

<育成技術を競い、将来の優良屋久島繁殖牛をつくろう！>

8月5日、屋久島町営旭牧場において、屋久島町主催で平成28年度屋久島町畜産共進会を開催した。子牛価格高騰の中、母牛更新の手段は自家保留中心となってくるが、出品牛17頭のうち、8割近くが自家保留牛で、すべてが発育標準値以上と発育は良好で資質の高い牛も多く、参加者一同で、育成状況や改良度合いなどを確認し合った。各部1席の3頭が、9月8日の熊毛地区畜産共進会に出場する。

<6次産業化、県内の先進事例を学ぶ！>

8月25日～26日、屋久島自然の恵み販売拡大事業(地域振興推進事業)を活用して、県内(福山、桜島、吹上、伊集院)で6次産業化に取り組む企業や個人農家の事例について受講生ら11名の参加のもと実施した。各研修先が取り組んだきっかけは様々であったが、いずれも「地域農産物あるいは自家農産物を活用した加工品を消費者に届けたい」と、年月をかけ継続的に活動している事例であった。参加者の情報交換も活発になされ、今後も引き続き6次産業化の取組について支援していきたい。

9月



<青年がプロジェクト活動を検討>

8月31日、屋久島町営農支援センターで屋久島地区青年農業者会議が開催され、4Hクラブ員9名を含む22名が出席した。当クラブでは、会員全員がプロジェクト活動に取り組んでおり、それぞれが抱える課題について実績検討し、次年度の計画発表をした。農林普及課では、青年の課題解決能力を向上させ、産地の担い手としてますます活躍され



るよう、引き続き支援していきたい。

＜新規就農者基礎研修会を開催＞

9月14日、屋久島事務所にて新規就農者基礎研修会を開催し、新規就農者2名が出席し、土壌肥料・病害虫防除・制度資金・生活設計等について研修をした。新規就農者からは、「大変勉強になった。今後もわからないことがあったら相談したい」との感想があった。指導農業士からは、「研修会等には積極的に参加して色々な情報が入手したり、篤農家と接して刺激を受けたりして欲しい」とアドバイスがあった。



＜郷土菓子「つのまき」づくりに挑戦！＞

9月8日、屋久島事務所会議室にて、第9回食の文化祭が「思いをつなぐ」というテーマで開催され、女性農業者23名が参加した。研修内容は①県立農業大学校について②くらしの行事と行事食について。②では、生活研究グループの代表者4名が四季の行事と食を2品ずつ紹介した後、郷土菓子の「つのまき」づくりに全員で挑戦した。悪戦苦闘の結果、約80個の「つのまき」ができあがった。今後も地域に息づく食文化伝承の取組を支援していく。

＜オガコ利用で畜舎環境の改善を図ろう！＞

9月6日、7月にオープンした(株)屋久島地杉加工センターのオガコの供給・利用に関する検討会を開催した。生産牛、養豚農家の代表者を含めた6名が参加し、センターは「オガコの発生状況」を説明し、畜産農家は「畜舎床面に敷き疾病を改善すること」や「通気性や水分調整で堆肥化促進する利用方法」を話し、配達サービスを要望するなど、屋久島の林畜連携活動が動き出した。今後、当課では、畜産農家がオガコを利用した飼養改善、環境改善の取組を支援していく。

＜県堆肥コンクールに3点出品決まる＞

9月16日、熊毛支庁にて県堆肥コンクール熊毛地区予選会が開催された。屋久島町からは3点(混合部門2点、豚ふん部門1点)出品し、5名の審査員のもと、色相・形状・臭気など外観による審査が行われた。審査の結果、3点ともに品質がよく、県の堆肥コンクールへの出品が決まった。今後も、品質の良い堆肥生産が行われるよう支援していく。

＜焼酎用さつまいも苗供給システム検討会の開催＞

9月20、21日に焼酎用さつまいも生産者を対象に苗供給システム検討会を開催した。屋久島はハウス育苗を導入している生産者が少なく、早期の苗確保が難しい状況である。そこで、町が農業管理センターに業務委託している果樹試験園の空きハウスを有効活用することとした。生産者からは、地元で早期に苗を購入できるのであれば利用したい、パイオ苗を導入してほしいなどの意見が出された。今後、関係機関と連携し、よりよいシステムが構築できるよう支援していく。



<ソロヤム優良種苗供給検討会>

10月17日、屋久島の特産品「屋久とろ」の原料であるソロヤムの優良種苗供給体制について、原料の加工・販売を行っている（株）タカラバイオの担当者、町、農林普及課で検討した。現在、種イモの原原種生産を農業開発総合センター熊毛支場へ委託しており、収量・品質が安定し、販売量も増加してきたことから、現体制を継続していくこととした。今後は、島内で種イモの供給体制を構築できるように取り組んでいく。

<茶業振興会会員が秋整枝のポイントと屋久島新技術を学ぶ>

10月14日、町内現地ほ場にて秋期茶園管理研修会を開催し、屋久島町茶業振興会員10名が参加した。二番茶後の深刈り更新園については、強い樹勢を意識し葉層15cmを目標にした整枝法に取り組んできており、良好な状態が保たれている。研修会では秋芽のバラツキを抑える摘芯処理や潮風害に影響されにくい管理体系等について紹介した。今後も収量と品質のバランスがとれた屋久島版茶園管理体系確立に向け支援を行う。



<売れる商品作りを目指せ！「求評会」開催>

10月20日、町営農支援センターで農水産物加工品の「求評会」を町と共催で開催した。出品点数30点、①味②みため③量④価格⑤市場性⑥総合の視点で5名の評価員（6次産業化プランナー3名と町観光協会長、町内の有識者）から評価後講評をいただいた。評価員から、価値が価格を上回る売れる商品づくりに取り組んでほしいとエールを送られた。出品者らは売れる商品づくりにむけてブラッシュアップをしていきたいと大変意欲的であり、共に取り組んでいきたい。



<「CHANGE」－変わる屋久島フルーツ第3章開催>

10月25日に「第3章：樹園地改造と省力化技術」と題して研修会を町営農支援センターで開催し、生産者30名が出席した。屋久島事務所から果樹園の約3割が改植が必要と説明した後、農業開発総合センター普及情報課の樋口農業専門指導員を講師に「果樹経営体の規模拡大に向けた樹園地改造と省力化技術について」研修を行った。今後は、改植事業等を活用して、研修で学んだ樹園地改造等が実践できるように、支援を行っていく。

11月



<実えんどう現地検討会開催>

11月18日、JA種子屋久屋久団地野菜部会の実えんどう栽培者を対象に現地検討会を開催した。28年産栽培面積は2.1haであり、うち約1haの品種が「まめこぞう」である。今年度は、発芽揃いも良好で、順調な生育である。農林普及課では、次年度から本格的に導入される「まめこぞう」の播種期、仕立て方法等の検討を行いながら、生産量向上へ向けて支援していく。



<ミカンコミバエ種群誘殺時の対応マニュアル説明会開催>

11月21日、門司植物防疫所鹿児島支所が策定した鹿児島県大島諸島以南におけるミカンコミバエ種群誘殺時の対応マニュアルの説明会が屋久島事務所会議室にて開催された。管内では、平成27年11月21日にミカンコミバエ種群が誘殺され、関係機関一丸となり、発生確認調査及び防除対策を実施した結果、平成28年7月13日に終息した。今後、同様の事態に対し即時対応できるよう、国の対応マニュアルに基づき、平時から備えておくことを各関係機関で確認した。

<焼酎用さつまいも苗供給システム説明会開催>

11月24日、焼酎用さつまいも栽培者12名に苗供給システム説明会を屋久島町営農支援センターにて開催し、町、JA、農林普及課、2酒造会社担当者を交えて意見交換を行った。屋久島農業管理センターが管理業務受託している果樹試験園の空きハウスを活用し、これまでは他品目と労働力が競合し育苗困難だった早期（3月下旬～4月）に良質な苗を供給し、生産量向上を目指すことを目的とする。今後、このシステムがスムーズに運用されるよう支援していく。

<始良・伊佐支部との交流を活かし、屋久島農業経営者クラブの活性化を！>

11月10～11日に、県農業経営者クラブ始良・伊佐支部との交流会を開催した。今年はクラブ員4名に認定農業業者5名も参加し、霧島市のクラブ員2名の事例研修と支部交流会（始良・伊佐支部8名を含む22名が参加）を行った。クラブ員から「互いの経営や取組、工夫を検討する機会となり良かった」との声があり、有意義な交流会となった。今後も当クラブの魅力ある運営を支援していく。

<生活研究グループ機関誌「こだま」発行。第45号！>

屋久島生活研究グループ連絡協議会では、昭和48年から毎年欠かさず、グループ員らの近況や1年間の活動を振り返る記録誌の役割も果たしている機関誌を発行しており、今年度もグループ員や過去に勤務し担当した生活改良普及員、現在の普及指導員から寄稿してもらい、11月10日に役員らで第45号となる機関誌を作成した。これからも活動の灯火を絶やさぬよう時代に沿った活動を支援していきたい。



<農業大学校同窓会屋久島支部が初の交流会を開催>

10月28日に屋久島町営農支援センターにて、県立農業大学校屋久島支部が交流会を開催し、同窓生10名が参加した。支部による交流は初めてで、年代は20～40歳代と幅広く、面識の無い同窓生もいたが、近況を語り合うなど有意義な時間になった。同窓生は、「これを機会に積極的に農大を紹介し、将来の屋久島農業を支える人材確保に貢献していきたい」と話していた。



<現地就農トレーナー茶部門研修で小売り茶販売を研修>

11月25日に屋久島事務所会議室にて、現地就農トレーナー茶部門研修を開催し、新規就農者3名をはじめ茶業振興会会員13名が参加した。今回の研修では、小売り茶の品質向上を目的に県内茶商社の製品を展示・評価した。また、普及情報課農業専門普及指導員等から、茶の保管技術や他産地の小売り販売事例の紹介を受けた。翌日は、現地にて「ゆたかみどり」の品質改善技術の指導を受け、実り多い研修となった。



12月



<商談会展展に向けて>

12月6日、町営農支援センターにおいて、屋久島自然の恵み販売拡大協議会主催による第3回自然の恵みセミナーが23名の参加で開催された。2月9～10日に屋久島で初の商談会の開催を予定しており、県6次産業化プランナーの吉田要講師より、商談会展展にむけての心構えや事前準備(商談会シートの作成等)についての研修を受けた。今後は、商談会での充実が図られるよう、出展者へ商談会シートの作成等を支援する。

<モデル集落原地区でぼんかん品評会開催>

12月16日、集落営農のモデル地区の原集落で、ぼんかんの品評会が開催され、着色遅れもあり例年より少ない18点の出品となった。糖度が平均11.2度とやや低かったが、台風の影響もなく外観のきれいな果実が多かった。審査後、会場は、ぼんかんのさわやかな香りにつつまれながら、生産者のぼんかんの出来談義が続いていた。農林普及課では、今後もモデル地区の活性化が図られるよう支援していきたい。

1月



<焼酎用さつまいも苗供給システム始動>

屋久島農業管理センターが管理業務受託している果樹試験園の空きハウスを活用した、焼酎用さつまいも苗供給システムがスタートした。1月19～20日、ハウス内に2酒造会社の品種「コガネセンガン」「シロユタカ」の種芋伏せ込みを行い、購入希望のあった町内の生産者14名に4月から苗を供給する計画である。農林普及課では、計画どおりに供給できるよう支援していく。

<先輩果樹農家に学ぶ>

1月19日に指導農業士2人を講師に招き、現地就農トレーナー果樹部門研修を開催した。若手果樹農家5名のたんかん園を巡回し、指導農業士から病害虫の発生状況や樹の仕立方法等について助言・指導を受けた。農林普及課では、今後も指導農業士とともに、青年農業者を支援していきたい。

<実えんどう現地検討会開催>

1月20日、JA種子屋久屋久団地野菜部会の実えんどう栽培者を対象に現地検討会を開催し、13名が参加した。今年度は、発芽揃いは良好だったが、気温が平年より高く推移したことから、害虫発生も多く、全体的に草勢が弱い状況である。検討会では、各生産者に対し、出荷規格の目揃えを行い、適期収穫に努めるよう指導した。今後、農林普及課では、計画数量が達成できるよう支援していく。

<東京の商談会へ！>

1月16日～17日、東京都立産業貿易センターで開催された「観光物産見本市2017」に屋久島自然の恵み販売拡大協議会から5名参加した。出展した商品は「緑茶」「和紅茶」「ウコン商品」「果樹ゼリー及びジャムセット(森のごちそうシリーズ)」。参加にあたっては、全ての商品の商談会シートを作成した。それをもとにパイヤ



ーらに商品のPRを行った。参加者は、商談の難しさを体感したようだった。農林普及課では、継続して販路拡大につながるよう支援していく。

<地域で生き生きと活動！女性農業者たち>

1月10日、屋久島事務所第3会議室にて屋久島つわぶき会総会及び研修会が開催された。参加者は10名。H29年度からは、会員が1名増え、12名の会員で活動する。研修会では、新規の会員であり、ウコンを栽培し6次産業化の総合化計画認定事業者でもある山福農園が、取り組んだ経緯や今後の目標などについて紹介した。会員の仲間づくりや活動交換をとおして、生き生きと活動する女性農業者を支援をしていく。

2月



<屋久島から過去最多5人が農業士等に認定される>

2月3日、ジェイドガーデンパレスにて農業士等認定証交付式が開催され、屋久島町からは総勢13人が出席した。認定者の内訳は指導農業士2人（野菜、茶）、青年農業士2人（果樹）、女性農業経営士1人（ウコン・果樹）で、特に野菜部門から初の指導農業士が認定され、新規就農者支援がより充実することが期待される。



<春期茶園管理研修会を開催>

1月30日、町内現地ほ場にて春期茶園管理研修会を開催し、屋久島町茶業振興会員9名が参加した。秋整枝以降の気温が高めに推移したことで、一番茶芽は十分充実できている。研修会では、園揃えのポイントのほか、秋期研修会で紹介した新技術実証ほの状況確認を行った。屋久島町では、樹勢の強い茶園づくりへ向け、来年以降もイメージした茶園管理への取組意識が高まっている。

<屋久島町の2事業者が県堆肥コンクールで表彰>

2月2日、鹿児島市で平成28年度の堆肥コンクール表彰式があり、最優秀・県知事賞を（有）宝珠産業が、奨励賞を（有）屋久島町地力センターが受賞した。牛ふん、おがくず、生ゴミ等を原料に、異物除去や水分調整などの製造を丁寧に行い、約7ヶ月で製品にした良質完熟堆肥である。両社長とも循環型農業や環境対策を重視しており、2年連続の受賞で、「品質の安定が認められうれしい」と喜びを語った。当課では、循環型農業で地力増進を図る取組を支援する計画である。



<平成28年度たんかん鉢入れ式開催される>

2月4日、町内原のたんかん園においてJA種子屋久屋久島果樹部会のたんかん鉢入れ式が開催された。生産者、関係者が集まり、収穫作業の安全を祈願し、鉢入れを行った。今年のたんかんは、果実肥大期に気温が高ったこともあり、玉肥大が良好な糖度11前後の果実が生産されている。JA種子屋久では、3月上旬までに約500tの出荷量を見込んでいる。

<屋久島町内の2地区でたんかん品評会が開催される>

2月17日、尾之間地区、2月20日、原地区でたんかん品評会が開催された。それぞれ16点、24点が出品され、外観や糖度などを基準に基づき審査した。出品果実は、風傷果や黒点病被害果等が一

部見られたが、全体的に外観のきれいな果実が出品されていた。気温が平年より高く、着色は紅のりがやや悪く、糖度は11度前後と例年より低い傾向であった。各地区とも上位6名が金賞、銀賞、銅賞を受賞した。当課では、むらづくりの一環として今後も支援していく。

＜簿記記帳グループの決算指導会に40名が参加＞

簿記記帳グループ「屋久島町アグリネット」（会員数44名）は、2月16、17日に税理士を招いての決算指導会が開催され、計40名の参加があった。参加者はそれぞれ決算書や申告書のチェックを受け、決算、申告までを終えた。当課からは分析手法の研修を行い、過去の記帳、決算を利用して分析をした農家は「こんなこともわかるんだ！」との声があり、パソコン簿記の魅力を実感していた。今後も経営改善につながる経営支援を継続する計画である。

＜島内初、商談会開催＞

2月9日、町総合センターにて屋久島自然の恵み販売拡大協議会が主催で町内初の商談会が開催された。出展者は、6次産業化志向農家ら9事業者。バイヤーは宿泊業者、飲食業者、土産業者等16名で意見として、出品数が少なかったが興味のある商品があり、今後このような催しがあれば参加したいということであった。出展者らは「バイヤーの声を直接聞け勉強になった」「真摯に受け止め、必要であれば改善したい」と意欲的であった。今後も販路拡大に向け支援していく。



平成28年度活動体制

職 名	氏 名	担 当 業 務
農林普及課長	井口 寿郎	課の総括
技術主幹兼農業普及係長	田淵 昭徳	係の総括, 果樹, ブランド育成
技術専門員	上福元真寿美	地域営農, 食育・地産地消, 女性起業
技術専門員	徳田 博幸	畜産, 経営, 担い手育成, 制度金融
技術主査	眞正 清司	茶, 新規就農・青年農業者育成
技術主査	入料 珠美	野菜, 作物, 花き, 土壌肥料, 病害虫